

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|--------------------|--|--|---|---|---------------|
| 学年 | 3 年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 |
| 教科 | 国語 | 科目 | 論理国語 | 単位 | 3 必修 選択 必修 |
| 使用教科書 | 「論理国語」(数研出版) | | 補助教材等 | 「論理国語 準拠ワーク」(数研出版) | |
| 科目の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 評価規準 | ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 | ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考えながら、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 | ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | |
| 第1学期 中間 考査まで | <文化の認識> ○「『いき』の美学」 ・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。 ・論理的な文書を読み、その内容を参考にしながら自分の意見を論じる。 ○「『文化が違う』とは何を意味するのか?」 ・「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。 ・文章中の例示の内容と同様の具体例を検討し話し合う。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 第1学期 期末 考査まで | <社会の枠組み> ○「人はなぜ働かななくてはならないのか」 ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする業者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 ・論理的な文章を読み、筆者の主張に対する自分の意見を論述する。 <情報と知性> ○「メディアのテロル」 ・「物語」と「情報」の対比構造を読み取り、「テロル」としての「メディア」の具体的な内容をとらえる。 ・情報を発信・受信するためのメディアとしての文学、音声、画像などの特色をとらえて、その有効性や問題点を話し合う。 ・文章の内容を踏まえて考えたことを具体例や根拠を明示して話し合う。 <環境と人間> ○「意志と選択」 ・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張をとらえる。 ・意志と選択を混同している例を具体的に考える。 ・抽象的な表現で述べられた筆者の主張を具体的に説明する。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 第1学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 観点別評価 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 評価規準 | ・言葉には言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。・主張とその前提や反証など、情報と情報との関係について理解を深めている。 | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいまを把握している。・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な観点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。・「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 | ・文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、また、筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。・課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。・資料図と資料文の内容と意見文とを積極的に比較検討し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。・筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に適切な事例を考え、学習課題に沿って話し合おうとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|------------|--|---|--|--|--|
| | 観点 | 評価の手段 | | | |
| 第2学期中間考査まで | <p>〈環境と人間〉</p> <p>○「エコロジーのミューズを求めて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張の根拠を、文章の構成や展開を踏まえて読み取り、「エコロジー」について自分の考えを深める。 ・筆者が「真の生態学的叡知」と表現する内容を具体的に考え話し合う。 <p>〈思索の深化〉</p> <p>○「顔の所有」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。 <p>〈物語と表現〉</p> <p>○「本歌取り」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本歌取りの表現技法の内容について理解を深め、本歌取りについての筆者の考えを読み取る。 ・先人の作品を現代の読者に喚起する表現の例を具体的に考えて文章にまとめ、発表する。 | 知識技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 知識・技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | | |
| 第2学期期末考査まで | <p>〈社会の枠組み〉</p> <p>○「『である』ことと『する』こと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えをとらえる。 ・文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。 <p>〈情報と知性〉</p> <p>○「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を踏まえて、「弱い人工知能」とは何かを考察する。 ・「『生命』の発展にとって必要な技術」について説明する。 <p>〈文化の認識〉</p> <p>○「学問の政治性」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無意識のアドバイス」の内容を理解し、筆者が述べる問題点を踏まえたうえで、具体例をあげて論述する。 ・「政治」に関する二つの文章を関連づけて読み、自分の意見を述べる。 | 知識・技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 知識・技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | | |
| 第2学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。 ・「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を理解したうえで積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って条件に即した形で説明したり、話し合いに参加したりしようとしている。 ・文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って、筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 ・課題テーマについて積極的に具体例を考え、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 | |
| 学年末考査まで | <p>〈環境と人間〉</p> <p>○「環境と心の問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的観念の内容を読み取る。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合う。 <p>〈思索の深化〉</p> <p>○「無常ということ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 ・筆者の考える「歴史」について、自分の考える「歴史」と比較しながら話し合う。 | 知識技能 | 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 知識・技能 | 課題やレポート 授業での活動 | | |
| 第3学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に調べ学習に取り組み、学習課題に沿って話し合おうとしている。 ・筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|--------------------|---|---------------------------|--|---|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合理系 |
| 教科 | 国語 | 科目 | 論理国語 | 単位 | 2 必修 選択 必修 |
| 使用教科書 | 「論理国語」(数研出版) | | 補助教材等 | 「論理国語 準拠ワーク」(数研出版) | |
| 科目の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | ◎ | ○ | |
| | 評価規準 | ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 | ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考えながら、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 | ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | |
| | | | | 観点 | 評価の手段 |
| 第1学期 中間 考査まで | <文化の認識> ○「『いき』の美学」 ・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解する。 ・日本人の美意識について考える。 ・論理的な文書を読み、その内容を参考にしながら自分の意見を論じる。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | 授業での活動 | 授業での活動 |
| | | | | 振り返りシート等 | 振り返りシート等 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート | 授業での活動 | 振り返りシート等 | | |
| 第1学期 期末 考査まで | <社会の仕組み> ○「人はなぜ働かななくてはならないのか」 ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする業者の主張を具体的に理解する。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述する。 ・論理的な文章を読み、筆者の主張に対する自分の意見を論述する。 <情報と知性> ○「メディアのテロル」 ・「物語」と「情報」の対比構造を読み取り、「テロル」としての「メディア」の具体的な内容をとらえる。 ・情報を発信・受信するためのメディアとしての文学、音声、画像などの特色をとらえて、その有効性や問題点を話し合う。 ・文章の内容を踏まえて考えたことを具体例や根拠を明示して話し合う。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | 授業での活動 | 授業での活動 |
| | | | | 振り返りシート等 | 振り返りシート等 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート | 授業での活動 | 振り返りシート等 | | |
| 第1学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ○ | ◎ | ○ | |
| | | 評価規準 | ・言葉には言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいながら要旨を把握している。・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。・「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。 | ・文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。・課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。・資料図と資料文の内容と意見文とを積極的に比較検討し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。・筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に適切な実例を考え、学習課題に沿って話し合おうとしている。 |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|------------|--|---|--|--|--|
| | 観点 | 評価の手段 | | | |
| 第2学期中間考査まで | <p><環境と人間> ○「エコロジーのミューズを求めて」 ・筆者の主張の根拠を、文章の構成や展開を踏まえて読み取り、「エコロジー」について自分の考えを深める。 ・筆者が「真の生態学的叡知」と表現する内容を具体的に考え話し合う。</p> <p><思索の深化> ○「顔の所有」 ・論の展開をふまえ、逆説的な表現の内容を説明したり、筆者の主張をまとめたりする。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性からとらえる。</p> | 知識技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| 第2学期期末考査まで | <p><社会の枠組み> ○「『である』ことと『する』こと」 ・各段落の要旨をまとめ、「民主主義」についての筆者の考えをとらえる。 ・文章内容を新聞の投稿文の内容と関連づけて考察する。</p> <p><情報と知性> ○「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 ・筆者の主張を踏まえて、「弱い人工知能」とは何かを考察する。 ・「『生命』の発展にとって必要な技術」について説明する。</p> | 知識・技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| 第2学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価規準 | <p>・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> | <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> | <p>・筆者の主張を理解したうえで積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って条件に即した形で説明したり、話し合いに参加したりしようとしている。 ・文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って、筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。 ・関連する二つの文章を積極的に読み比べることで自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。 ・文章の内容に適した具体例を粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。</p> | |
| 学年末考査まで | <p><環境と人間> ○「環境と心の問題」 ・機械論的自然観、原子論的な還元主義、物心二元論といった哲学的観念の内容を読み取る。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合う。</p> <p><思索の深化> ○「無常ということ」 ・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 ・筆者の考える「歴史」について、自分の考える「歴史」と比較しながら話し合う。</p> | 知識技能 | 課題やレポート 授業での活動 | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | 思考判断表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | 主体的に学習に取り組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| 第3学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価規準 | <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> | <p>・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。</p> | <p>・筆者の考えを的確に理解したうえで、積極的に調べ学習に取り組む、学習課題に沿って話し合おうとしている。 ・筆者の主張を理解したうえで自分の考えを深め、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p> | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|----------------------|---|---|---|--|-----------------------------|
| 学年 | 3 年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 |
| 教科 | 国語 | 科目 | 古典探究 | 単位 | 3 必修 選択 必修 |
| 使用教科書 | 精選古典探究古文編 (東京書籍) 精選古典探究漢文編 (東京書籍) | 補助教材等 | 「精選古典探究古文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「精選古典探究漢文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店) | | |
| 科目の目標 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 評価規準 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画 (学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | |
| 第 1 学期 中間 考查まで | 〈古文〉 説話「蓮華城、入水のこと」 (発心集) 説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。 日記「女郎花」 (紫式部日記) 作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。 〈漢文〉 史話「赤壁之戦」 (十八史略) 登場人物の行動や心情を読み取り、語彙を豊かにして文章にまとめる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 知識 | 定期考查等 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期考查等 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 知識 技能 | 定期考查等 課題やノート 小テスト等 |
| 第 1 学期 期末 考查まで | 〈古文〉 作り物語「なにがしの院」 (源氏物語) 作り物語を多面的・多角的な視点から読み、作品についての理解を深める。 〈漢文〉 小説「桃花源記」 (陶淵明集) 話の展開を捉え、そこに描かれている世界を読み味わい、ものの見方感じ方を豊かにする。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 知識 | 定期考查等 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期考查等 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 知識 技能 | 定期考查等 課題やノート 小テスト等 |
| 第 1 学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | ○ | ○ | |
| | | ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を確認する。 | ・古典特有の表現に注意して、登場人物たちがその都度、どのような気持ちを抱いたか整理し、まとめている。 ・文章や台詞に込められたおもしろさを理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | ・作品のテーマについて、作者がどのように捉えているか理解しようとしている。 ・本文の内容や構成、展開を的確に捉え、登場人物の行動や心情を読み取り、人物像についてまとめようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | |
|---|--|------------|---------------|--------------------|--|--------------|--|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第2学期 中間 考查まで | <p>〈古文〉 評論「鷹狩りの歌」（俊頼髄脳） 構成を的確に捉えながら歌論を読み、内容の解釈を深める。</p> <p>評論「もののあはれの論」（源氏物語玉の小櫛） 背景を踏まえながら論旨を的確に捉え、考えを深める。</p> <p>〈漢文〉 史記「凶窮而七首見」（史記） 『史記』を読み、荊軻の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。</p> | | | 知識 技能 | 定期考査等 | | |
| | | | | | 課題やノート | | |
| | | | | | 小テスト等 | | |
| 第2学期 期末 考查まで | <p>〈漢文〉 詩「李白と杜甫」 詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。</p> <p>〈古文〉 歴史物語「道長、伊周の競射」（大鏡） 「隆家と道長」（大鏡） 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。</p> | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | | |
| | | | | | 課題やノート | | |
| | | | | | 小テスト等 | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <p>・語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・本文中の漢字の意味・用法や、詩形・押韻・対句に注意しながら正確に朗読し、書き下すことができる。</p> | | |
| | | | | | | 評価 規 準 | <p>・歌道に精進する歌人の生き方や、物語の在り方に対する作者の意見を読み取る。</p> <p>・文章を通して作中人物の置かれた境遇や、行動に秘められた心情を読み取る。</p> |
| | | | | | | | |
| <p>〈古文〉 俳諧 俳文に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考えを広げる。</p> <p>〈漢文〉 思想「諸子百家」 各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。</p> | 知識 技能 | 課題やノート | | | | | |
| | | 小テスト等 | | | | | |
| | | 授業での活動 | | | | | |
| 学年末 考查まで | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <p>・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。</p> <p>・それぞれの思想における代表的な思想家とその内容を正しく理解している。</p> | | |
| | | | | | | 評価 規 準 | <p>・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</p> <p>・それぞれの思想家が強調・重視していることを対比的に読み取ることができる。</p> |
| | | | | | | | |
| <p>〈古文〉 俳諧 俳文に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考えを広げる。</p> <p>〈漢文〉 思想「諸子百家」 各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。</p> | 知識 技能 | 課題やノート | | | | | |
| | | 小テスト等 | | | | | |
| | | 授業での活動 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <p>・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。</p> <p>・それぞれの思想における代表的な思想家とその内容を正しく理解している。</p> | | |
| | | | | | | 評価 規 準 | <p>・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。</p> <p>・それぞれの思想家が強調・重視していることを対比的に読み取ることができる。</p> |
| | | | | | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|--|-----------|------------|--------------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系 | | |
| 教科 | 国語 | 科目 | 古典講読 | 単位 | 2 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | 精選古典探究古文編 (東京書籍) 精選古典探究漢文編 (東京書籍) | | 補助教材等 | 「精選古典探究古文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「精選古典探究漢文編学習課題ノート」 (東京書籍) 「基礎から学ぶ解析古典文法」 (桐原書店) 「漢文必携」 (桐原書店) | | | |
| 科目の目標 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | 評価規準 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画 (学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 考查まで | 〈古文〉 説話「蓮華城、入水のこと」 (発心集) 説話に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。 日記「女郎花」 (紫式部日記) 作品の背景を踏まえながら日記を読み、内容の解釈を深める。 〈漢文〉 史話「赤壁之戦」 (十八史略) 登場人物の行動や心情を読み取り、語彙を豊かにして文章にまとめる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期 考査等 | 課題 やノート | 小テスト 等 |
| | | | | | 定期 考査等 | 授業 での活動 | 振り返り シート等 |
| | | | | | 定期 考査等 | 授業 での活動 | 振り返り シート等 |
| 第1学期 期末 考查まで | 〈古文〉 作り物語「なにがしの院」 (源氏物語) 作り物語を多面的・多角的な視点から読み、作品についての理解を深める。 〈漢文〉 小説「桃花源記」 (陶淵明集) 話の展開を捉え、そこに描かれている世界を読み味わい、ものの見方感じ方を豊かにする。 | 知識 ・ 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期 考査等 | 課題 やノート | 小テスト 等 |
| | | | | | 定期 考査等 | 授業 での活動 | 振り返り シート等 |
| | | | | | 定期 考査等 | 授業 での活動 | 振り返り シート等 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・脚注・辞書等を参照し、語句・句法の意味・用法に注意して正しく現代語訳し、内容を確認する。 | ・古典特有の表現に注意して、登場人物たちがその都度、どのような気持ちを抱いたか整理し、まとめている。 ・文章や台詞に込められたおもしろさを理解し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | ・作品のテーマについて、作者がどのように捉えているか理解しようとしている。 ・本文の内容や構成、展開を的確に捉え、登場人物の行動や心情を読み取り、人物像についてまとめようとしている。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------------------|--|---|---|--|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | <p>〈古文〉 評論「鷹狩りの歌」（俊頼髄脳） 構成を的確に捉えながら歌論を読み、内容の解釈を深める。</p> <p>評論「もののあはれの論」（源氏物語玉の小櫛） 背景を踏まえながら論旨を的確に捉え、考えを深める。</p> <p>〈漢文〉 史記「凶窮而七首見」（史記） 『史記』を読み、荊軻の生き方を通して人間のあり方について関心を深める。</p> | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| 第2学期 期末 考查まで | <p>〈漢文〉 詩「李白と杜甫」 詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。</p> <p>〈古文〉 歴史物語「道長、伊周の競射」（大鏡） 「隆家と道長」（大鏡） 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。</p> | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| 第2学期 中間 考查まで | <p>〈漢文〉 詩「李白と杜甫」 詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。</p> <p>〈古文〉 歴史物語「道長、伊周の競射」（大鏡） 「隆家と道長」（大鏡） 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。</p> | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期 期末 考查まで | <p>〈漢文〉 詩「李白と杜甫」 詩にうたわれた情景や作者の心情を読み味わい、近体詩と古体詩の違いを理解する。</p> <p>〈古文〉 歴史物語「道長、伊周の競射」（大鏡） 「隆家と道長」（大鏡） 歴史物語を背景に注意しながら読み、作品についての理解を深める。</p> | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やノート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・ 語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・ 本文中の漢字の意味・用法や、詩形・押韻・対句に注意しながら正確に朗読し、書き下すことができる。 | ・ 歌道に精進する歌人の生き方や、物語の在り方に対する作者の意見を読み取る。 ・ 文章を通して作中人物の置かれた境遇や、行動に秘められた心情を読み取る。 | ・ 作品の背景を踏まえながら評論の論旨を的確に捉え、今までの学習を生かして、自分の考えを深めようとしている。 ・ 漢詩の中の情景や作者の心情を味わい、詩の発想の豊かさや、表現のおもしろさを理解しようとしている。 | |
| 学年 末 考 査 ま で | <p>〈古文〉 俳諧 俳文に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取り、考えを広げる。</p> <p>〈漢文〉 思想「諸子百家」 各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。</p> | | | 知識 技能 | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| | | | | | |
| 第3学期 中間 考 査 ま で | <p>〈漢文〉 思想「諸子百家」 各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。</p> | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| | | | | | |
| 第3学期 期末 考 査 ま で | <p>〈漢文〉 思想「諸子百家」 各テーマに対する諸子百家の思想の違いを知り、ものの見方、考え方を豊かにする。</p> | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やノート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・ 言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・ それぞれの思想における代表的な思想家とその内容を正しく理解している。 | ・ 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・ それぞれの思想家が強調・重視していることを対比的に読み取ることができる。 | ・ 俳論の内容を捉え、多面的・多角的な視点から自分の考えを深めようとしている。 ・ 文章からそれぞれの考え方を読み取り、その違いについて理解するとともに、各テーマに対して自分自身の考えをまとめようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|--------------------|---|--|----------|---|----------|--|---------------------------|--------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合文系 | | | |
| 教科 | 国語 | 科目 | 文学購読 | | 単位 | 2 | 必修 選択 | |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 「文学国語セレクション」(東京書籍) | | | | |
| 科目の目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | | 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第1学期 中間 考查まで | 〈小説〉 「窓」いしいしんじ ・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 〈詩歌〉 「夏の姿」木原涼 ・象徴的な表現が示している内容を理解し、描かれた情景や心情を読み取る。 | 知識 技能 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やノート | |
| | | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 授業での活動 |
| | | | | | | | 主体的に 学習に取 り組む 態度 | 定期考査等 |
| | | 授業での活動 | 振り返りシート等 | | | | | |
| | | 定期考査等 | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第1学期 期末 考查まで | 〈小説〉 「こころ」夏目漱石 ・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 〈随筆〉 「雨月物語」木内昇 ・筆者の考え方の変化を捉え、『雨月物語』が筆者にどのような影響を与えたかを考える。 | 知識 技能 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やノート | |
| | | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 授業での活動 |
| | | | | | | | 主体的に 学習に取 り組む 態度 | 定期考査等 |
| | | 授業での活動 | 振り返りシート等 | | | | | |
| | | 定期考査等 | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ○ | | ◎ | | ○ | | |
| | | ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 | | ・粘り強く登場人物の関係性と心情を描写から把握し、今までの学習を生かして人の心のありようについて考えを深め、自分の考えを話し合おうとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------|---|--|--|-----------------------|-----------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | 〈小説〉 「沖縄の手記から」 田宮虎彦 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。 〈詩歌〉 「永訣の朝」 宮澤賢治 ・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 第2学期期末考査まで | 〈小説〉 「檸檬」 梶井基次郎 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。 〈随想〉 「モードの変遷」 穂村弘 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 | | | 知識・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 学年末考査まで | 〈随筆〉 「文学の未来」 小野正嗣 ・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。 〈詩歌〉 「金剛の露一俳句抄」 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 ・俳句のルールにしたがって季節に合った俳句を創作する。 | | | 知識 技能 | 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | | 思考 判断 表現 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | |
| 第3学期 | 観点別 評価 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 | | | | 知識・ 技能 |
| | | | | 課題やノート 小テスト等 | |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 | | | 知識・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート 小テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|--|---------------------------|---|--------|--|----------|---------------|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合理系 | | | | |
| 教科 | 国語 | 科目 | 文学購読 | | 単位 | 1 | 必修 選択 | | |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 「文学国語セレクション」(東京書籍) | | | | | |
| 科目の目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | | |
| | 評価規準 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 | | 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 | | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | | | |
| 第1学期 中間 考查まで | 〈詩歌〉 「夏の姿」木原涼 ・象徴的な表現が示している内容を理解し、描かれた情景や心情を読み取る。 | 知識 技能 | 定期考查等 | | 課題やノート | | 小テスト等 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考查等 | | 授業での活動 | | 振り返りシート等 | |
| | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 課題やノート | | 授業での活動 | | 振り返りシート等 |
| 第1学期 期末 考查まで | 知識 ・ 技能 | 定期考查等 | | | 課題やノート | | 小テスト等 | | |
| | | 思考 判断 表現 | 定期考查等 | | 授業での活動 | | 振り返りシート等 | | |
| | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 課題やノート | | 授業での活動 | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | | | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価 規準 | ◎ | | ○ | | ○ | | | |
| | | ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 | | ・粘り強く登場人物の関係性と心情を描写から把握し、今までの学習を生かして人の心のありようについて考えを深め、自分の考えを話し合おうとしている。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|------------|---|--|--|---|--|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | 〈詩歌〉 「永訣の朝」宮澤賢治 ・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| 第2学期期末考査まで | 〈小説〉 「檸檬」梶井基次郎 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | | ◎ | | ○ | ○ |
| | | ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 | | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 | ・粘り強く時代背景や登場人物の生き方・考え方を把握し、学習課題に沿って、人間の生と死について考え、まとめようとしている。 |
| 学年末考査まで | 〈詩歌〉 「金剛の露—俳句抄」 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 ・俳句のルールにしたがって季節に合った俳句を創作する。 | | | 知識 技能 | 課題やノート |
| | | | | | 小テスト等 |
| | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | | ◎ | | ○ | ○ |
| | | ・俳句を鑑賞することを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 | | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 | ・粘り強く俳句独自の特徴と表現効果を理解し、学習課題に沿って想像力を働かせながら句の主題を読み取り、印象に残った句について書こうとしている。 |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|--|-------|---|----------------|--|----------|--------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | | |
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 | | 単位 | 4 | 必修 選択 | |
| 使用教科書 | 地理探究（東京書籍） | | 補助教材等 | 「最新地理図表GEO」（第一学習社） 「要点マスター地理探究」（第一学習社） | | | | |
| 科目の目標 | 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、説明、議論したりする力を養い、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚などを深める。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚を深めている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第1編 現代世界の系統地理的考察 第2章 産業と資源 6 工業の立地と工業地域の変容 ・工業の立地条件や業種ごとの特徴をふまえて、世界の各地域における工業の立地の傾向性について考察し、表現するとともに、世界や日本の工業の現状や課題を理解する。 7 第三次産業 ・地図を活用して商業や情報通信業の立地を読み取る活動を通して、第三次産業の動向を理解する。 | | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| 第1学期 期末 考査 まで | 第3章 交通・通信、貿易、観光 1 交通・通信 ・交通機関や通信技術の発達について理解するとともに、交通や通信の発達が産業や地域に与える影響や課題を考察し、理解する。 2 貿易と経済連携 ・世界の諸地域における貿易の特徴や現状を理解するとともに、現代の貿易に関わる課題を考察し、表現する。 3 観光 ・地図や統計などの諸資料から観光の特徴や動向、変化の規則性や傾向性を読み取り、理解する。 | | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> 工業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解している。 交通機関や通信の発達が産業や地域に与える影響を理解している。 地図や統計などの諸資料から観光の動向や変化を読み取る技能を身に付けている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 地理的条件や文化、歴史的背景をふまえて工業の立地を多面的に考察している。 現代の貿易や観光に関わる課題を考察し、表現している。 交通・通信や貿易の動向について、産業や経済の状況を結び付けて考察している。 | | <ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚を深めている。 わが国の領域に関する動向や領土問題について関心を深めている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-------------------------------|---|--|--|--|-------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | 第4章 人口、村落・都市 3 村落・都市 4 居住・都市問題 ・地形図から村落・都市の特徴や形成要因、傾向性を読み取り、表現する。 ・都市問題の要因や傾向性を理解し、その動向や対策について考察し、表現する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期期末考査まで | 第5章 生活文化、民族・宗教 1 生活文化の地域性 ・世界の諸地域の衣食住の特徴や分布について、地図や写真を活用して、気候や農業との結び付きをふまえて多面的・多角的に考察し、理解する。 2 民族・言語・宗教 3 民族問題 ・民族や言語、宗教の特徴や分布、文化の理解を通して多文化を尊重する態度を養う。 ・民族問題について、民族や言語、宗教、歴史的背景など様々な要因から考察するとともに、現代世界の諸課題の動向や対応について多面的に考察し、表現する。 4 現代の国家と領土問題 ・国家の領域や国境紛争の動向と解決に向けた取組をふまえ、わが国のもつ領土問題について考察する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・村落と都市の形成の特徴や形成要因を理解している。 ・衣食住や宗教などの生活文化の特徴を理解している。 ・地形図や写真などの諸資料から必要な情報を収集する技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界や日本の人口問題について多面的に考察している。 ・衣食住の特徴や分布について、地形や気候と結び付けて考察し、表現している。 ・文化や歴史的背景をふまえて民族・領土問題を多面的に考察している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さへについて自覚を深めている。 | |
| 学年末考査まで | 第3編 現代世界と日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 ・現代世界における日本の動向と課題について、空間的な規則性や傾向性をふまえて多面的・多角的に考察し、解決の方向性や持続可能な国土のあり方を表現する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の日本の発展の特徴をふまえて、現代の日本の動向や課題を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本が抱える課題とその解決の方向性について多面的・多角的に考察し、表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本でみられる諸課題を主体的に探究し、わが国の現状と将来についての関心を深めている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|--|-------|--|----------------|--|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合系 | | |
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 地理探究 | | 単位 | 3 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 地理探究（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院） | | 補助教材等 | 最新地理図表GEO （第一学習社） ニューコンパスノート （東京法令出版） | | | |
| 科目の目標 | 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、説明、議論したりする力を養い、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚などを深める。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | ・世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、諸地域の地域的特色や課題などを理解している。 ・調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | | ・地理に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。 | | ・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚を深めようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 地理探究へのステップ ・地図の見方・活用方法 ・地形図の読み取り 第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 1 世界の地形 ・地形図や衛星画像、空中写真、景観写真などを活用し、諸資料を読み取る技能を身に付けるとともに、海岸線や平野、山脈の分布やその形成の要因を理解する。 ・大地形や小地形の特徴や形成要因の理解を通して、土地利用や自然災害など人間活動の関わりについて多面的・多角的に考察し、表現する。 | | | | 知識 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 2 気候と自然環境 ・地形や大気の流れ、水の循環など気候を形成する要因について理解し、気候が生態系に与える影響について理解する。 3 気候と人々の生活 ・雨温図や写真などの資料を活用し、ケッペンの気候区分の特徴などの空間的な規則性、傾向性を理解するとともに、気候や生態系と人間活動の関わりについて多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界の諸地域の気候や生態系と人間活動の関わりについて考察する活動を通して、多様な生活文化を尊重する態度を養う。 | | | | 知識 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | ・平野や山脈など地形の分布や形成要因について理解している。 ・気候の形成要因や分布の規則性、傾向性を理解している。 ・地形図や写真などの諸資料を読み取り、必要な情報を収集する技能を身に付けている。 | | ・地形と人間活動の関わりについて考えている。 ・気候と人間活動の関わりについて多面的に考察し表現している。 ・自然災害や環境問題の解決に向けた取組などについて多面的に考察している。 | | ・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについて自覚を深めようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------|---|---|---|--|-------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考査まで | 第2章 産業と資源 1 産業の発展と社会的分業 ・産業構造の特徴や変化について、産業革命など歴史的背景もふまえながら理解する。 2 農林水産業 ・農業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解するとともに、地形や気候、歴史的背景などに着目して考察し、表現する。 3 食料問題 ・食品の安全性や飢餓など農林水産業の現状や課題を理解し、その解決に向けた取組を多面的・多角的に考察し、表現する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| | | | | | |
| 第2学期 期末 考査まで | 4 エネルギーと鉱山資源 5 資源・エネルギー問題 ・地図や統計などの諸資料から資源やエネルギー供給の特徴や分布を読み取る活動をふまえ、資源・エネルギーに関連する地球的課題の要因や動向を考察し、表現する。 6 工業の立地と工業地域の変容 ・工業の立地条件や業種ごとの特徴をふまえて、世界の各地域における工業の立地の傾向性について考察し、表現するとともに、世界や日本の工業の現状や課題を理解する。 7 第三次産業 ・地図を活用して商業や情報通信業の立地を読み取る活動を通して、第三次産業の動向を理解する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・農業の立地や形態の特徴、分布の傾向性について理解している。 ・資源・エネルギーの分布や供給の動向について、地図や統計などの諸資料から読み取る技能を身に付けている。 | ・農林水産業の現状や課題の解決に向けた取組について多面的に考察している。 ・資源・エネルギーに関連する地球的課題の要因や動向を考察し、表現している。 | ・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・世界の諸地域における多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さへについて自覚を深めようとしている。 | |
| 第3学期 | 第3章 交通・通信、貿易、観光 1 交通・通信 ・交通機関や通信技術の発達について理解するとともに、交通や通信の発達が産業や地域に与える影響や課題を考察し、理解する。 2 貿易と経済連携 ・世界の諸地域における貿易の特徴や現状を理解するとともに、現代の貿易に関わる課題を考察し、表現する。 3 観光 ・地図や統計などの諸資料から観光の特徴や動向、変化の規則性や傾向性を読み取り、理解する。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・交通機関や通信の発達が産業や地域に与える影響を理解している。 ・地図や統計などの諸資料から観光の動向や変化を読み取る技能を身に付けている。 | ・現代の貿易に関わる課題を考察し、表現している。 ・交通・通信や貿易の動向について、産業や経済の状況を結び付けて考察している。 | ・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。 ・現代の世界でみられる諸課題について関心を深めようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|--------------------|---|---|-------|--|--|---|-----------------|------------------------------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | | |
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 日本史探究 | | 単位 | 4 | 必修 選択 | |
| 使用教科書 | 「日本史探究」(実教出版) | | 補助教材等 | 「新詳日本史」(浜島書店) 「日本史探究マイノート」(実教出版) | | | | |
| 科目の目標 | 日本史に関わる諸事象を、地理的条件や世界史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から日本史に関する情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。 日本史の意義や伝統などを、時期などを比較し、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を養う。 課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国の文化を尊重することの大切さの自覚などを深める。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 日本史に関わる諸事象を、地理的条件や世界史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から日本史に関する情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。 | | 日本史に関わる事象の意義や伝統などを、時期や推移を比較し現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。 | | 日本史に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国の文化を尊重することの大切さの自覚などを深める。 | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 考查まで | 第3部 近世の日本と世界 1 東アジア世界の変容と天下統一 ・武家政権の変容、貿易の展開、都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長などを理解させる。 ・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などについて、多面的・多角的に考察させる。 | | | | 知識 技能 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| | | | | | 主体的 に学 習に 取 組 む 態 度 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 | 振り 返り シ ー ト 等 |
| 第1学期 期末 考查まで | 2 幕藩体制の成立と展開 3 近世の国家・社会の変容 ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容についての意味や意義、関係性などについて、多面的・多角的に考察させる。 | | | | 知識 技能 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| | | | | | 主体的 に学 習に 取 組 む 態 度 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 | 振り 返り シ ー ト 等 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価 規 準 | ・幕藩体制や近世の文化の特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | | ・幕府や諸藩の政策や国際情勢の変化などに着目して幕藩体制の成立と展開について多面的・多角的に考察している。 | | ・近世の国家・社会の変容についての意味や意義、関係性について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------|--|---|--|--|-------------------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | 第4部 近現代の地域・日本と世界 1 開国から倒幕へ 2 明治維新 ・幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解させる。 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容について、多面的・多角的に考察させる。 3 近代国家の形成 4 両大戦間の日本 ・自由民権運動以降の動向、立憲体制への移行、国民国家の形成などを理解させる。 ・アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、大戦前後の対外政策や国内政治について、事象の意義などについて考察させる。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第2学期 期末 考查まで | 5 十五年戦争と日本 ・恐慌、軍部の台頭、戦時体制の強化と太平洋戦争などを基に、戦争に至る過程及び戦争中の政治・社会、国民生活の変容について理解させる。 6 戦後日本の形成 ・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係などを基に、戦後の国民生活の変容について理解させる。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けさせる。 ・戦争の推移と国民生活への影響、太平洋戦争前後の社会、冷戦の影響、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、事象の意味などを多面的・多角的に考察させる。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・十五年戦争以降の国際社会と日本の関係について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・十五年戦争以降の国際社会と日本の関係について、戦争が及ぼした影響などに着目して、多面的・多角的に考察している。 | ・十五年戦争がもたらした日本と国際社会の関係について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。 | |
| 第3学期 | テーマ別探究活動 2年間にわたる日本史学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて、下の①～③のいずれかに関わる主題を設定し、史料を活用して探究する活動を行う。 ① 社会や集団と個人 ② 世界の中の日本 ③ 伝統や文化の継承と創造 ・生徒自らの日本史の学習で見いだしたことがらについて、事象の意味や意義、関係性などを構造的に整理して、多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現させる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・設定したテーマに関する事象等について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・設定したテーマに関する事柄について、多面的・多角的に考察している。 | ・設定したテーマについて、主体的にかつ多面的・多角的に考察しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|------------|--|--|--|--|-----------|
| 学年 | 3 年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 |
| 教科 | 地理歴史 | 科目 | 世界史探究 | 単位 | 4 必修選択 選択 |
| 使用教科書 | 「世界史探究」(実教出版) | | 補助教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ・アカデミア世界史(浜島書店) ・世界史探究マイノート(実教出版) ・ウィニングコンパス世界史の整理と演習(とうほう) | |
| 科目の目標 | 世界史に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。 世界の諸地域について、時期や地理的条件などを比較し、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を養う。 課題を主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される世界の中での日本人としての自覚、他国の文化を尊重することの大切さの自覚などを深める。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | |
| 観点別評価 | 評価規準 | 世界史に関わる諸事象を、地理的条件や日本の歴史と関連付けて総合的に理解し、諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けている。 | 世界の諸地域での事象について、時期や推移を比較し、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、解決を視野に入れて構想したりする力や、それを効果的に説明したり議論したりする力を身に付けている。 | 世界の諸地域での事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して世界の中で生きる日本人としての自覚を持つとともに、他国の文化を尊重することの大切さを認め、課題を主体的に探究しようとしている。 | |
| | 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 |
| 第1学期中間考査まで | 第9章 アジア諸地域の帝国 ・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解させる。 第10章 近世ヨーロッパの形成と展開 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解させる。 ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特徴と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第3部 諸地域の結合と変容 第11章 産業革命と大西洋革命 ・産業革命と環大西洋革命などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解させる。 ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | | | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第1学期期末考査まで | 第12章 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家 ・自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解させる。 第13章 地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗 ・国際的な分業体制と第二次産業革命、帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解させる。 ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現させる。 第14章 第一次世界大戦と諸地域の変容 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解させる。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | | | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・近世ヨーロッパの形成と展開について、その特色を理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 ・近現代における産業革命、大西洋革命、帝国主義の意義について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・宗教改革や三角貿易の展開、啓蒙思想の広がりなどに着目して近世ヨーロッパ社会の成立と展開について多面的・多角的に考察している。 ・近現代史における国際社会の変化と各国の関係について、政治、社会的な諸革命が及ぼした影響などに着目して、多面的・多角的に考察している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・近世の国家・社会の変容についての意味や意義、関係性について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。 ・近現代史における国際社会の変化と各国の関係について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------------|--|--|---|---|--|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | 第15章 第二次世界大戦と戦後の国際秩序 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序，冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に，第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解させる。 ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連，アジア諸国の独立の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 第16章 冷戦と現代世界 ・集団安全保障と冷戦の展開，アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き，平和共存と多極化の進展，冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に，紛争解決の取組と課題を理解させる。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第2学期 期末 考查まで | 第17章 世界経済の展開 第18章 科学技術の時代と知識基盤社会 ・先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差は正の取組と課題を理解させる。 ・国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴，諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴，経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現させる。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・第二次世界大戦以降の国際社会の動向について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・第二次世界大戦以降の国際社会の動向について、戦争が及ぼした影響などに着目して、多面的・多角的に考察している。 | ・第二次世界大戦がもたらした国際社会の変化について、主体的にかつ他者と協働しながら、多面的・多角的に考察しようとしている。 | |
| 学年 末 考 査 ま で | テーマ別探究活動 2年間にわたる世界史の学習を踏まえ，持続可能な社会の実現を視野に入れ，地域社会や身の回りの事象と関連させて，下の①～③のいずれかに関わる主題を設定し，史料を活用して探究する活動を行う。 ① 紛争と共生 ② 経済発展と経済格差 ③ 科学技術の発展や文化の受容 ・生徒自ら世界史の学習で見いだしたことがらについて，事象の意味や意義，関係性などを構造的に整理して，多面的・多角的に考察し，根拠を示して表現させる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・設定したテーマに関する事象等について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・設定したテーマに関する事柄について、多面的・多角的に考察している。 | ・設定したテーマについて、主体的にかつ多面的・多角的に考察しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|--------------------|---|---|--|--|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 |
| 教科 | 公民 | 科目 | 公民演習 | 単位 | 2 |
| | | | | 必修 選択 | 選択 |
| 使用教科書 | 「詳述倫理」(実教出版) 「詳述政治・経済」(実教出版) | | 補助教材等 | | |
| 科目の目標 | 現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解するとともに、必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけさせ、現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を養うことで、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めさせる。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 評価規準 | ・現代の諸課題について考察する手がかりとなる概念や理論を理解している。 ・必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身につけている。 | ・現実社会の諸課題の解決に向けて、その判断の手がかりとなる考え方や基本的原理を活用して、多面的に考察し公正に判断する力や、合意形成を視野に構想したことを議論する力を身につけている。 | ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。 | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | |
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第1学期 中間 考查まで | ●国際社会に生きる日本人としての自覚 1 古代日本人の思想 ・日本人の自然観と気質、神との関わりと道徳観について理解し、考察を深める。 2 日本の仏教思想 ・仏教の日本的展開をひもとき、日本文化としての仏教について考察する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取 組む態度 | 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | | 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第1学期 期末 考查まで | 3 近世日本の思想 ・中世から近世における儒教のありようについて理解し、深く考察する。 4 西洋思想の受容と展開 ・近代日本における西洋思想の受容について理解し、近代日本哲学と超国家主義について考察を深める。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取 組む態度 | 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | | 定期考查等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | ○ | ○ | |
| | | ・古代から近代に至る日本の思想について理解している。 ・倫理的思考に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 | ・それぞれの時代の倫理観について考えている。 ・人間としての在り方生き方について考えている。 ・個人と社会との関わりについて多面的に考察し表現している。 | ・国際的に絶えず変化する現代社会を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民としての自覚を深めようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-------------------------------|---|---|--|--|-------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | <倫理的分野> ●人間としてのあり方生き方 ・ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想について、自らの課題との関わりを考えながら、主体的に探究する。 <政治・経済的分野> ●現代日本の経済 ・現代日本経済の現状についての情報を収集し、その分析から課題を見だし、その解決策を主体的に探究する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期期末考査まで | <倫理的分野> ●社会・世界と人間としてのあり方生き方 ・近代科学、民主社会、現代社会の諸思想について、自らの課題との関わりを考えながら、主体的に探究する。 <政治・経済的分野> ●現代の国際政治・国際経済 ・現代国際社会の現状についての情報を収集し、その分析から課題を見だし、その解決策を主体的に探究する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・倫理的、政治・経済的分野の基礎的な内容について理解している。 ・実際の事象や現代社会に関わる諸資料など、必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 | ・自らが設定した課題について多面的に考察し表現している。 ・現代社会についての課題について多面的に考察し表現している。 | ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・現代を生きる人間としての自覚や、公共的な空間に生きる公民として協力し合うことの自覚を深めている。 | |
| 学年末考査まで | テーマ別探究活動 2年間にわたる公民学習を踏まえ、自ら設定したテーマで探究する活動を行う。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・設定したテーマに関する事象等について理解している。 ・適切な史料を基に情報を読み取る技能を身に付けている。 | ・設定したテーマに関する事柄について、多面的・多角的に考察している。 | ・設定したテーマについてについて、主体的にかつ多面的・多角的に考察しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------|--|--|--|--|-----------|-----------------|----------------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系 | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ⅲ | 単位 | 4 | 必修 選択 | 選択 |
| 使用教科書 | 「新編 数学Ⅲ」(数研出版) | | 補助教材等 | 3TRIAL 数学Ⅲ(数研出版) | | | |
| 科目の目標 | 極限、微分法及び積分法の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用しようとする態度を育てる。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | 評価規準 | 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 | 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身につけている。 | 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 期末 まで | 第3章 微分法 第1節 導関数 微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できるようにする。 第2節 いろいろな関数の導関数 導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できるようにする。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できるようにする。 第4章 微分法の実用 第1節 導関数の実用 導関数を、接線、関数の増減、グラフなどに活用できるようにするとともに、積極的に導関数を活用しようとする姿勢を育てる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | |
| | | | | | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | |
| | | | | | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| 第1学期 期末 まで | 第2節 いろいろな応用 関数のグラフを方程式や不等式の考察に活用できるようにする。また、点の運動や近似式についても理解し、導関数を様々な方法で活用する姿勢を育てる。 第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 様々な関数の不定積分やその計算法則を導関数をもとにして考え、それをもとに不定積分を求められるようにする。 | 知識 ・ 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | |
| | | | | | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | |
| | | | | | 定期 考査等 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | ・三角関数・対数関数・指数関数の導関数を理解し、三角関数を含む種々の関数の導関数を計算できる。 ・微分係数の意味を理解しており、接線の方程式を求めることができる。 ・関数の極大値・極小値や最大値・最小値を調べる際に、増減表をわいて考察している。 ・被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 | ・対数微分法を利用して、複雑な関数を微分について考察することができる。 ・接線に直交する条件と、直線の方程式の公式から、法線の方程式の公式を考察することができる。 ・第2次導関数の符号と導関数の増減の関係を理解している。 ・微分法の逆演算として、不定積分を計算することができる。 | ・微分係数の図形的意味を考察しようとする。 ・自然対数の底eを考える必要性に興味をもち、考察しようとする。 ・関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。 ・方程式や不等式を関数的視点でとらえ、解決しようとする。 ・不定積分の公式が適用できるように式変形を工夫しようとする。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|--|---|---|----------------|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | 第2節 定積分 様々な関数の定積分を求められるようにする。また、定積分を面積として捉え、様々な事象の考察に活用できるようにする。 第3節 積分法の応用 定積分を活用して、面積、体積、曲線の長さなどを求められるようにし、またそれらを通じて定積分の理解をさらに深める。 | | | 知識 技能 | 定期検査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期検査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 期末 考查まで | 問題演習 総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期検査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期検査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 定積分の定義や性質を理解し、それを利用して種々の関数の定積分を計算できる。 定積分の置換積分法、部分積分法を理解し、それを利用して複雑な関数の定積分を計算できる。 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 置換積分法を利用して、円の面積を求める公式が数学的にきちんと証明できたことを理解することができる。 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。定積分が、図形の計量に関して有用であることを認識している。 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 置換積分法により、複雑な関数の定積分を求めることに興味・関心を示す。 図形の面積を求めるとき、グラフの位置関係などを、図をかりて把握しようとする。 立体の体積を計算するには断面積を表す関数を積分すればよいことに興味・関心をもち、考察しようとする。 | | |
| 学年 末 考查まで | 問題演習 総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|--|---------------------------|---|-----------------|---|----------|--|--|---|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合文系 | | | | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学演習 α | | 単位 | 2 | 必修 選択 | 必修 | | |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 新課程ニューステージ数学演習 I・A・II・B・C受験編 (数研出版) | | | | | | |
| 科目の目標 | 問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。 | | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | | | |
| | 評価規準 | 数学において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | 数学において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする態度を養おうとしている。 | | | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | | | |
| 第1学期 中間 考查まで | | <ul style="list-style-type: none"> 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 | 知識 技能 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | | | | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | | | | | |
| | | | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 | | | | | |
| 第1学期 期末 考查まで | | <ul style="list-style-type: none"> 2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 | 知識 ・ 技能 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | | | | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期 考查等 | 課題 やレポ ート | | | | | |
| | | | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 課題 やレポ ート | 授業 での活 動 | | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | | | | | | | | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | | | | 数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------|---|---|---|--|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を，三角比を用いて表現し定理や公式を導く力を培う。 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力，目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力，不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりする力などを養う。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第2学期期末考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・場合の数を求めるときの基本的な考え方，確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・さまざまな人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を，数学を用いて考察できるような力を培う。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |
| 学年末考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------|---|--|---|---|--|---|---|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合理系 | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学演習α | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 新課程ベーシックスタイル数学 演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C (数研出版) | | | |
| 科目の目標 | 問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 数学において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | 数学において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする態度を養おうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| 第1学期 中間 期末 まで | | <ul style="list-style-type: none"> 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 第1学期 期末 まで | | <ul style="list-style-type: none"> 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 三角関数の加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 指数関数や対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| 第1学期 | 観点別評価 | ◎ | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | | | ◎ | | ○ | | ○ |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 基礎的な知識・技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|---|---|--|----------------|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 ・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。 ・位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 ・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |
| 学年 末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|---|--|---------------|---|---------------------------|--|----------|----|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系 | | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学演習β | | 単位 | 4 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 新課程ベーシックスタイル数学 演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C (数研出版) | | | | |
| 科目の目標 | 問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 数学において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | 数学において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする態度を養おうとしている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | | <ul style="list-style-type: none"> ・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 ・2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方、確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期考査等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 定期考査等 | 授業での活動 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | | <ul style="list-style-type: none"> ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。 ・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ・座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 | 知識 ・ 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期考査等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 定期考査等 | 授業での活動 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|---|---|--|----------------|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ・指数関数や対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・和の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。 ・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 ・位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 ・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |
| 学年 末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|---|--|----------|---|---------------------------|---|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合理系 | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学演習β | | 単位 | 4 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 新課程ベーシックスタイル数学 演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C (数研出版) | | | |
| 科目の目標 | 問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 数学において、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | | 数学において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたりしようとする態度を養おうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| 第1学期 中間 考查まで | | <ul style="list-style-type: none"> 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 | 知識・技能 | 定期検査等 課題やレポート | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 授業での活動 | |
| | | | 思考・判断・表現 | 定期検査等 課題やレポート | | | |
| | | | 知識・技能 | 定期検査等 課題やレポート | | | |
| 第1学期 期末 考查まで | | <ul style="list-style-type: none"> 2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 | 知識・技能 | 定期検査等 課題やレポート | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 授業での活動 | |
| | | | 思考・判断・表現 | 定期検査等 課題やレポート | | | |
| | | | 知識・技能 | 定期検査等 課題やレポート | | | |
| 第1学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 基礎的な知識・技能を身につけている。 | | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------|---|---|---|--|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係を，三角比を用いて表現し定理や公式を導く力を培う。 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力，目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切な統計量やグラフ，手法などを選択して分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力，不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりする力などを養う。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第2学期期末考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・場合の数を求めるときの基本的な考え方，確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・さまざまな人間の活動の中から，整数を中心とした数学的な要素を見出し，数学の内容の理解を深めると同時に，現実の事象を，数学を用いて考察できるような力を培う。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |
| 学年末考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・総合問題を解くことで，論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|--|---|---------------|--|-----------|--|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系 | | |
| 教科 | 数学 | 科目 | 数学演習 γ | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | 3 TRIAL 数学C (数研出版) | | | |
| 科目の目標 | 問題解決の過程を振り返って、既習事項の確認を行うとともに、条件から立式し正確に解法を導く計算力や思考力を養う。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。 | | 図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけている。 | | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 考查まで | ○複素数平面 複素数平面において複素数の演算がどのように表されるかを理解し、複素数の計算を図形を用いて考察するとともに、図形の考察に複素数の計算を活用できるようにする。 ・複素数平面 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理 ・複素数と図形 | 知識 技能 | | | 定期 考查等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 課題やレポート | |
| | | | | | | 課題やレポート | |
| 第1学期 期末 考查まで | ○式と曲線 放物線、楕円、双曲線の定義や性質を理解し、それらを図示したり、問題の解決に活用したりできるようにする。また、離心率を用いて2次曲線を統一的に捉えられるようにする。曲線が媒介変数を用いて表される仕組みを理解し、様々な曲線の媒介変数表示について考察できるようにする。また、極座標の仕組みについて理解し、図形を極方程式で表したり、極方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 ・放物線 ・楕円 ・双曲線 ・2次曲線の平行移動 ・2次曲線と直線 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と極方程式 | 知識 ・ 技能 | | | 定期 考查等 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 課題やレポート | |
| | | | | | | 課題やレポート | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | | ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | | ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | | ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|----------------|--|---|---|--|----------------|---------|
| | | | | 観点 | 評価の手段 | |
| 第2学期中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方、確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。 ・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。 ・座標や式を用いて、直線や円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ・指数関数や対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・微分係数や導関数の意味や積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。 ・数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。 ・位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 ・平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |
| 学年末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・総合問題を解くことで、論理的思考力や問題解決力、数学的な推論力を身につける。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | | 課題やレポート |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学の基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解している。 ・基礎的な知識・技能を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|---|--|----------------|---|----------------|---|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系 | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学基礎演習 | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 「化学基礎」(実教出版) | | 補助教材等 | ニューステップアップ 化学基礎 新課程 (東京書籍) | | | |
| 科目の目標 | 物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | |
| | 評価規準 | 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 | | 自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。 | | 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対して探究しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 考查まで | 1章 物質の構成 1節 物質の探究 ・物質を成分によって「混合物、純物質、化合物、単体」に分類できることを知り、各物質の特徴を理解する。 ・身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。 ・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 ・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取 組む態度 | 定期 考查等 | 課題 プリント | |
| | | | | | 授業 での活 動 | | |
| | | | | | 授業 での活 動 | 定期 考查等 | |
| 第1学期 期末 考查まで | 2節 物質の構成粒子 ・原子の大きさや構造について理解する。原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。 ・イオンの生成を電子配置と関連づけて考える。 ・電子の配列と性質との関わりについて理解する。 2章 物質と化学結合 1節 イオン結合 ・陽イオンと陰イオン間の静電的引力によりイオン結合が形成されることを理解する。 ・水溶液中や熔融した状態のイオンの挙動をイメージし、表現することができる。 ・イオン結合でできた物質の性質について探究する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取 組む態度 | 定期 考查等 | 課題 プリント | |
| | | | | | 授業 での活 動 | | |
| | | | | | 授業 での活 動 | 定期 考查等 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | 評価 規 準 | ・粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解している。 | |
| | | | | | | ・物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを実験的・論理的に考え、表現することができる。 | |
| | | | | | | ・物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとしている。 ・元素の性質に興味を持ち、元素の性質が周期的に変わることを探しようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------|---|--|--|---|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | 2節 共有結合と分子間力 ・分子中の原子の結合および分子の構造を表す方法を理解する。 ・電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考える。 3節 金属結合 ・金属結合が自由電子の介在した結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解する。 4節 化学結合と物質 ・身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考える。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題プリント |
| | | | | 授業での活動 | |
| | 思考 判断 表現 | 授業での活動 | | | |
| | | 定期考査等 | | | |
| 課題プリント | | | | | |
| | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | |
| | | 課題プリント | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | 3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式 ・原子量・分子量・式量と物質の関係論理的・分析的・包括的に理解できているとともに、物質を用いた基本的な計算をする。 ・モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質ととの関係を表していることを理解する。 2節 酸と塩基 ・酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉える。 ・酸・塩基の価数・強弱の関係を理解している。性、塩基性の程度とpHの関係を理解する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題プリント |
| | | | | 授業での活動 | |
| | 思考 判断 表現 | 授業での活動 | | | |
| | | 定期考査等 | | | |
| 課題プリント | | | | | |
| | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | |
| | | 課題プリント | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 共有結合を電子配置と関連付けて理解している。 電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 電気陰性度を理解し、分子の形と合わせて極性について考えることができる。 質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 金属に共通する性質について、探究しようとしている。 分子からなる物質や、共通結合の結晶の性質について探究しようとしている。 | |
| 学年 末 考查まで | 3節 酸化還元反応 ・酸化・還元の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解している。酸化数の定義を理解する。 ・金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出す。 ・酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究する。 | | | 知識 技能 | 授業での活動 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| 課題やレポート | | | | | |
| | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | |
| | | 課題やレポート | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化数の定義を理解している。 イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 酸化還元反応の量的関係を理解している | <ul style="list-style-type: none"> 酸化数の定義を理解し、これらの定義を適用できる反応を見出すことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な現象と酸化還元反応を関連付けて、探究しようとしている。 酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ、意欲的に探究しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------------|---|--|--------|--|----------|----------------------------------|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系 | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 生物基礎演習 | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 「高等学校生物基礎」 (第一学習社) | | 補助教材等 | センサー生物基礎 (啓林館) | | | |
| 科目の目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | |
| | 評価規準 | 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 | | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 ・生物を比較し生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。 第2節 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。 | | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 ・DNAの構造や性質、関係性と、体細胞分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。 第2節 遺伝情報とタンパク質 ・生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。 | | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 第1学期 ・すべての生物は共通した特徴をもつことを理解している。 ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解している。 ・転写と翻訳の過程の概略を理解している。 | | | | ◎ | ○ | |
| | | | | | | ○ | |
| | | | | | | ○ | |
| 第1学期 | 第1学期 ・生物にみられる特徴について説明できる。 ・光合成や呼吸において、ATPが利用される過程と、担う役割について説明できる。 ・塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。 | | | | ◎ | ○ | |
| | | | | | | ○ | |
| | | | | | | ○ | |
| 第1学期 | 第1学期 ・資料からわかることを積極的に読み取るようとしている。 ・DNAの複製について、資料から読み取れることを積極的に説明しようとしている。 ・塩基配列とアミノ酸配列の関係を、資料から積極的に読み取るようとしている。 | | | | ◎ | ○ | |
| | | | | | | ○ | |
| | | | | | | ○ | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|---|--|---|----------------|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <p>第3章 ヒトのからだの調節</p> <p>第1節 情報の伝達と体内環境の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。 <p>第2節 免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> 免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | | 振り返りシート等 |
| 定期考査等 | | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | <p>第4章 植生と遷移</p> <p>第1節 植生と遷移</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在することを理解させる。 植生はそれを取り巻く環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。 <p>第2節 バイオーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温や降水量の違いにより地球上には多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。 | | | 知識 ・ 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | | 振り返りシート等 |
| 定期考査等 | | | | | | |
| 学年末 考查まで | <p>第5章 生態系とその保全</p> <p>第1節 生態系と植物の多様性</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動と関連付けて理解させる。 <p>第2節 生態系のバランスと保全</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | | 振り返りシート等 |
| 定期考査等 | | | | | | |
| 第2学期 | 観 点 別 評 価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ◎ | ○ | ○ | | |
| | 評 価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 体液の種類と関係について理解している。 生体防御には、皮膚などによる防御と免疫があることを理解している。 植生、相観、優占種について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 体内環境の調節では、内分泌系と自律神経系の働きの違いを説明できる。 生体防御について物理的・化学的に病原体の侵入を防ぐ機構と免疫に分けて説明できる。 植生と降水量、平均気温を示したグラフが読み取れる。 | <ul style="list-style-type: none"> 二次応答によって同じ感染症にかかりにくいことを資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。 植生ごとの環境の比較の観察に積極的に取り組もうとしている。 | | |
| 第3学期 | 観 点 別 評 価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ○ | ◎ | ○ | | |
| | 評 価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 生態系の構造を理解している。 生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 各生態系で、異なる種の多様性がみられる理由を説明できる。 生態系を保全する意義を説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 上位の栄養段階の生物が生態系で果たす役割を、資料から積極的に読み取ろうとしている。 河川でみられる自然浄化の流れを、資料から読み取り、積極的に説明しようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|----------------|---|---|--|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系 | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 地学基礎演習 | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 「高等学校地学基礎」 (啓林館) | | 補助教材等 | ニューステップアップ地学基礎 (東京書籍) | | | |
| 科目の目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | | 地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通し、情報収集、仮説や実験の設定と観察、データの分析・解釈、推論など探究方法を習得するとともに、レポート作成や発表を通して、理解した内容を表現することができる。 | | 地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとしている。自然環境の保全に寄与しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第1部 固体地球とその活動 第1章 地球 第1節 地球の外観 ・地球の形の特徴と大きさを観察や測定結果を通して見だし、厳密には球でないことを理解させる。 第2節 地球の内部構造 ・地殻やマントルを構成する岩石の特徴を見いださせ、層構造について理解させるとともに地球内部の状態を理解させる。 第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地球の活動 ・プレート分布と運動及びそれに伴う大地形の形成について理解させる。 第2節 地震 ・火山活動や地震に関する資料から火山活動と地震発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させるとともにプレート境界における火山の活動や分布などの特徴を理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 課題やレポート | 授業での活動 | |
| | | | | | 振り返りシート等 | 定期考査等 | |
| | | | | | 課題やレポート | 授業での活動 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 第3節 火山活動と火成岩の形成 ・火山活動と火成岩の形成の仕組みについて理解させるとともに岩石の組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいた分類ができるようにする。 第2部 大気と海洋 第1章 大気と海洋 第1節 大気圏 ・気圧や気温の鉛直方向の変化について、大気圏の特徴を理解させるとともに、気圧や気温が高度とともに変化し、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されることを理解させる。 第2節 水と気象 ・水の循環と対流圏の気象について理解させる。 第2章 太陽放射と大気・海水の運動 第1節 地球のエネルギー収支 ・地球の熱収支について理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 課題やレポート | 授業での活動 | |
| | | | | | 振り返りシート等 | 定期考査等 | |
| | | | | | 課題やレポート | 授業での活動 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | 評価規準 | | |
| | | | | | プレートの運動や境界について理解するとともに、プレート運動によって大地形が形成されることを理解している。 ・砂や火山灰の観察から鉱物を識別し、火成岩を組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類できる。 ・大気圏の層構造について理解し、各層の特徴や観測される現象について説明することができる。 | | |
| | | | | | ・地殻を構成する岩石の特徴から、地球内部の密度や層構造について説明できる。 ・地震と火山の分布がプレート境界に対応することを見だし、プレートの運動によって地震や火山活動が起こることを説明できる。 ・地球の形や大きさを調べるにあたり、過去の人々がとった方法や、地球の実際の形や大きさについて関心を持って学習しようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------|---|---|--|---|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | 第2節 大気の大循環 ・大気の大循環と地球規模の熱の輸送について理解させるとともに、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。 第3節 海水の循環 ・海水の運動と地球の熱の輸送について理解させる。 第3章 日本の天気 第1節 日本の位置 第2節 冬から春の天気 第3節 夏から秋の天気 ・日本の気象に影響を与える偏西風や大陸と海の分布について理解させる 第3部 移り変わる地球 第1章 地球の誕生 第1節 宇宙の誕生 第2節 太陽系の誕生 ・宇宙と太陽系の誕生、太陽系の天体の特徴について理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期 期末 考查まで | 第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代 ・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。 ・古生物の変遷と地質時代の区分、地球環境の移り変わりについて理解させるとともに、地層や化石の観察をととして古生物の変遷を理解させる。 ・地球環境の変化について、大気の変化と生命活動が相互に関わりながら地球環境が変化してきたことを理解させる。 第3章 地球史の読み方 第1節 地層からわかること 第2節 地層の形成 第3節 地層の読み方 ・化石と地層の対比について理解させる。 | 知識 ・ 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・宇宙誕生について、ビッグバン以降に水素原子やヘリウム原子が誕生して宇宙の晴れ上がるまでの過程を理解している。 ・地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを理解するとともに、各地質時代の出来事や特徴的な生物、化石について理解している。 | ・地質構造の観察から、当時の環境や地殻変動を推定することができる。同時に、化石の観察結果から古生物の特徴を考察することができる。 | ・気温や気圧が高度とともに変化し、大気に層構造があることに興味を持ち、意欲的に学習しようとしている。 ・地形や地層、化石について意欲的に観察や実験を行い、それらが作られた環境や原因を学ぶことを通して、地球の歴史とその特徴を説明しようとしている。 | |
| 学年 末 考查まで | 第4部 自然との共生 第1節 地球環境と人類 第2節 地震災害・火山災害 第3節 気象災害 第4節 災害と社会 第5節 人間社会と地球環境の変化 ・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解させる。 ・日本における自然環境の特徴を理解させ、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ばせる。 ・地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づいて、地域の自然災害の特徴を理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・地球規模で起きている自然環境の変化について理解するとともに、それらの変化が人間活動の影響によって起きていることを理解している。 | ・自然災害の原因や条件を理解し、災害リスクを減らすための方法について総合的に判断し、それを表現することができる。・地球環境に影響を及ぼしている人間活動について考察するとともに、現在の状況が続くことによる将来への影響について総合的に判断することができる。 | ・自然災害の起きる状況を理解し、災害リスクを減らすための科学的な見方・考え方を身につけようとしている。 ・地球規模の自然環境やそこで起きている環境変化について関心を持って学習しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|----------------------------|-----------------------------------|---------------------------|--|---|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合系 | | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 物理 | 単位 | 4 必修 選択 | | | |
| 使用教科書 | 「物理」(数研出版) | | 補助教材等 | リードLightノート 物理 (数研出版) | | | | |
| 科目の目標 | 「様々な運動」「波」「電気と磁気」「原子」について「物理基礎」との関連を図りながら、更に進んだ物理学的な方法で自然の事物・現象を取り扱う。また、観察、実験を通して、物理学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育てる。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | | | | |
| | 評価規準 | 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能が身についている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。 | 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 | | | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | | | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第4編 電気と磁気 1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー ・電場や電位、電界中や回路中でのコンデンサーの振る舞いについて理解する。 2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体 ・様々な回路における電流、電圧の扱い方について理解する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | | | |
| | | | | 課題やレポート | | | | |
| | | | | 授業での活動 | | | | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力 ・電流と磁場の関係について理解する。 4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 交流の発生 3. 自己誘導と相互誘導 4. 交流回路 5. 電磁波 ・電磁誘導の法則と電磁波の性質について理解する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | | | |
| | | | | 課題やレポート | | | | |
| | | | | 授業での活動 | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | ◎ | | | |
| | | | | | | ◎ | ○ | ○ |
| | | | | | | ・電場中の荷電粒子の運動を解析することができる。 ・様々な回路について、各部分を通る電流やかかる電圧を求めることができる。 ・磁場中の導線や導体棒にかかる力を求め、その運動やそれによる電磁誘導について解析できる。 | ・複雑な回路や誘電体を挿入したコンデンサーについて、電流の流れ方や電荷の移動について説明できる。 ・ローレンツ力以外の力が働く場合の電磁誘導について、導体棒の運動を説明できる。 | ・身の周りにおける電気や磁力を用いたものと学習内容を関連付けながら理解しようとしている。 ・電流の流れ方やコンデンサーの充電され方、磁場中の荷電粒子の運動がどのようなものか理解しようとしている。 |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-------------------------------|---|--|---|---|-------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考査まで | 第5編 原子 1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性 ・電子や光子の性質について理解する。 2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子 ・原子の構造や核エネルギーについて理解する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 期末 考査まで | 共通テスト演習 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・陰極線や光子の性質を理解できる。 ・原子の構造やエネルギー準位、放射性同位体について理解できる。 ・既習事項を使って、基礎的な問題を解くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・光電効果やX線のせいしつについて説明できる。 ・問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質を構成する原子や電子、光子が発見された経緯について、興味を持って主体的に理解しようとしている。 ・発展的な問題に対しても、状況を理解したり、類似問題と比較したりして解析を進めようとしている。 | |
| 学年 末 考査まで | 2次試験対策 | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 授業での活動 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って、基礎的な問題を解くことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な問題に対しても、状況を理解したり、類似問題と比較したりして解析を進めようとしている。 | |

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|--|---|--|---|---------|----------|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合理系 | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 物理演習 | 単位 | 1 | 必修 選択 | 選択 |
| 使用教科書 | 「物理」(数研出版) | | 補助教材等 | セミナー 物理基礎+物理 | | | |
| 科目の目標 | 「様々な運動」「波」「電気と磁気」「原子」について「物理基礎」との関連を図りながら、更に進んだ物理学的な方法で自然の事物・現象を取り扱う。また、観察、実験を通して、物理学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育てる。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | | | |
| | 評価規準 | 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能が身につけている。 | 観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。 | 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画(学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 考査まで | 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落下の運動 ・平面内を運動する物体の運動について理解する。 第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力のつりあい 2. 剛体にはたらく力の合力と重心 ・大きさのある物体にはたらく力のつりあいを理解する。 第3章 運動量の保存 1. 運動量と力積 2. 運動量保存 3. 反発係数 ・運動量と力積の関係、物体の衝突や分裂における運動量保存について理解する。 第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動 4. 万有引力 ・円運動をする物体、単振動する物体のようすを表す方法やその物体にはたらく力などについて理解する。 ・惑星の運動に関する法則を理解する。 ・万有引力の法則、万有引力による物体の運動について理解する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | 振り向きシート等 |
| 第1学期 期末 考査まで | 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則 2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化 ・気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・気体の内部エネルギーについて、気体の分子運動と関連づけて理解する。 ・気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解する。 第3編 波 第1章 波の伝わり方 1. 波と媒質の運動 2. 正弦波の式 3. 波の伝わり方 ・波の伝わり方とその表し方について理解する。 第2章 音の伝わり方 1. 音の伝わり方 2. 音のドップラー効果 ・波、音の干渉と回折について理解する。 ・音のドップラー効果について理解する。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | 定期考査等 | 課題やレポート | 振り向きシート等 |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | |
| | 評価 規準 | ・運動量と力積の求め方を理解し、運動量保存則を式をたてられる。 ・円運動、万有引力に関する物理量の定義を理解し、円運動の式やエネルギー保存の式をたてられる。 ・気体分子の熱運動や内部エネルギーについて理解できている。 ・波の伝わる様子や干渉をグラフで表したり読み取ったりすることができる。 | ・運動量の変化と力積の関係式から、物体が受ける力積と平均の力の大きさについて説明できる。 ・等速円運動の中心方向の運動方程式から、物体の運動を考えることができる。 ・気体の法則を用いて、状態変化やされた仕事、エネルギー変化を考えることができる。 ・波の強め合いと弱め合いの条件を説明できる。 | ・落下の運動や水平投射、斜方投射、剛体のつり合い・運動について物体の運動はどのようになっているか理解しようとしている。 ・等速円運動する物体にはどのような力が必要かはたらくているか理解しようとしている。 ・波の干渉、ドップラー効果に興味を持ち、理解しようとしている。 | | | |
| | | | | | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|------------|---------------|--------------------|---|--|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | 第4編 電気と磁気 1章 電場 1. 静電気力 2. 電場 3. 電位 4. 物質と電場 5. コンデンサー ・電場や電位、電界中や回路中でのコンデンサーの振る舞いについて理解する。 2章 電流 1. オームの法則 2. 直流回路 3. 半導体 ・様々な回路における電流、電圧の扱い方について理解する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | |
| | | | | | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| 第2学期 期末 考查まで | 3章 電流と磁場 1. 磁場 2. 電流のつくる磁場 3. 電流が磁場から受ける力 4. ローレンツ力 ・電流と磁場の関係について理解する。 4章 電磁誘導と電磁波 1. 電磁誘導の法則 2. 交流の発生 3. 自己誘導と相互誘導 4. 交流回路 5. 電磁波 ・電磁誘導の法則と電磁波の性質について理解する。 第5編 原子 1章 電子と光 1. 電子 2. 光の粒子性 3. X線 4. 粒子の波動性 ・電子や光子の性質について理解する。 2章 原子と原子核 1. 原子の構造とエネルギー準位 2. 原子核 3. 放射線とその性質 4. 核反応と核エネルギー 5. 素粒子 ・原子の構造や核エネルギーについて理解する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | |
| | | | | | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <ul style="list-style-type: none"> 電場中の荷電粒子の運動を解析することができる。 様々な回路について、各部分を流れる電流やかかる電圧を求めることができる。 磁場中の導線や導体棒にかかる力を求め、その運動やそれによる電磁誘導について解析できる。 既習事項を使って、基礎的な問題を解くことができる。 | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 複雑な回路や誘電体を挿入したコンデンサーについて、電流の流れ方や電荷の移動について説明できる。 ローレンツ力以外の力が働く場合の電磁誘導について、導体棒の運動を説明できる。 光電効果やX線のせいしつについて説明できる。 問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 |
| | | | | | | |
| 学年末 考查まで | 2次試験対策 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を使って、基礎的な問題を解くことができる。 問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 発展的な問題に対しても、状況を理解したり、類似問題と比較したりして解析を進めようとしている。 | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 |
| | | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を使って、基礎的な問題を解くことができる。 問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 発展的な問題に対しても、状況を理解したり、類似問題と比較したりして解析を進めようとしている。 | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 問題を解く過程や用いた公式の意味を説明できる。 |
| | | | | | | |

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|---|--|------------------|--|-------------------------------|--|----------|----|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合理系 | | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 化学 | | 単位 | 4 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | 化学（実教出版） | | 補助教材等 | フォトサイエンス化学図録（数研出版） リードlightノート化学（数研出版） | | | | |
| 科目の目標 | 化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 化学的な事物・現象の観察、実験などを行うことを通して、化学の基本的な概念や原理・法則を理解している。科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけている。 | | 化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、報告書の作成、発表など探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身につけている。 | | 化学的な事物・現象に主体的に関わり、課題を設定し解決しようとする態度や、科学的に探究しようとする態度を身につけている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第2章 物質の変化と平衡 3節 反応の速さとしくみ ・反応速度を定量的に扱う。 ・反応速度に影響する条件について理解する。 4節 化学平衡 ・化学平衡について、反応速度の観点から考える。 ・化学平衡が移動する条件とそのしくみについて理解する。 ・電離平衡について学び、pHや塩の加水分解などのしくみを理解する。 第3章 無機物質 1節 周期表 2節 非金属元素 ・水素、貴ガス、ハロゲンの製法と性質について理解する。 ・ハロゲンの単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 | 知識 技能 | 定期考査等 課題やレポート | | 主体的に 学習に 取り組 む態 度 | 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート | | 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | | 定期考査等 課題やレポート | | | | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 3節 金属元素 ・アルカリ金属、アルカリ土類金属、1、2族以外の典型元素、遷移元素の単体と化合物について、その製法、性質、反応を理解する。 ・金属イオンの特有の反応について学び、金属イオンの分離方法を理解する。 4章 有機化合物 1節 有機化合物の特徴と分類 ・有機化合物は、官能基ごとに似た性質をもつため、官能基によって分類されることを理解する。 ・有機化合物の化学式を決めるための一連の手順を学ぶ。 2節 脂肪族炭化水素 ・アルカン、アルキン、アルケンの構造や一般式、性質、反応を知るとともに、異性体の存在を学ぶ。 | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 課題やレポート | | 主体的に 学習に 取り組 む態 度 | 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 課題やレポート | | 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | | 定期考査等 課題やレポート | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 評価 規 準 | ○ | | ◎ | | ○ | | |
| | | 反応速度に影響する条件を理解し、その知識をもとに反応のしくみを理解している。電離平衡について、酸・塩基と関連付けて、その原理を理解している。金属イオンについて、それぞれの反応性を理解し、イオンを分離する方法を身につけている。 | | 反応の速さを決める条件やそのしくみを理解し、反応のしくみについて論理的に推論することができる。電離平衡について、酸・塩基の概念と共理解し、説明することができる。また、pHを計算することができる。 | | 反応の速さに関する事象・現象に関心をもち、反応のしくみを探究しようとする。有機化合物の特徴と分類について探究しようとする。有機化合物の構造決定について意欲的に探究しようとする。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------|--|---|--|--|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | 3節 酸素を含む脂肪族化合物 ・アルコール、エーテルなどについて、定義、分類、性質、反応を理解する。 ・カルボン酸について、定義、分類、性質、反応を理解する。また、鏡像異性体についても理解する。 4節 芳香族化合物 ・ベンゼン環を基本骨格とする芳香族炭化水素は、脂肪族炭化水素とは異なる性質をもつことを理解する。 ・フェノール類などの性質、反応について理解する。 ・アニリンの製法、性質、反応を学び、また、アニリンからアゾ染料が合成されることを理解する。 ・有機化合物の混合溶液から、各化合物を分離する方法を理解する。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 作品や課題 | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | 5章 高分子化合物 1節 高分子化合物 ・高分子化合物の分類と特徴、そのでき方について理解する。 2節 天然高分子化合物 ・糖類、タンパク質について、その代表的な物質の構造、性質、存在例などを理解する。 3節 合成高分子化合物 ・合成繊維、合成樹脂などについて、その代表的な物質の構造、性質、利用例などを理解する。 | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 作品や課題 | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | 炭化水素の構造や反応性、それぞれの関係について理解し、知識として身につけている。異性体について理解している。天然高分子化合物の性質と反応に関する概念や原理・法則を理解し、知識を身につ | 酸素を含む脂肪族化合物について、それぞれの物質がもつ官能基によって共通の性質がもたらされることを理解し、その性質を実験によって確かめることができる。 | 芳香族炭化水素について、その構造や性質、反応性を意欲的に探究しようとする。合成高分子化合物について、その構造や性質、利用のされ方を意欲的に探究しようとする。 | |
| 学年 末 考查まで | 各章のまとめと復習 これまでの内容について、演習を通して、知識の定着を確認するとともに思考力や応用力の向上を図る。 | | | 知識 技能 | 実技テスト等 |
| | | | | | 課題やレポート |
| | | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 |
| 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | |
| | 作品や課題 | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | 基礎的内容や語句について理解し、教科書や問題集の基礎的問題を解くことができる。 | 基礎的内容や語句について理解し、実験についての考察や演習問題を解くことができる。 | これまでに学習した内容をもとに演習に積極的に取り組んだり、より高度な内容に興味を持ち演習に取り組んだりしようとする。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|---------------------------|---|--|---|--|---|----------------------------------|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合理系 | | |
| 教科 | 理科 | 科目 | 生物 | 単位 | 4 | 必修 選択 | 選択 |
| 使用教科書 | 「高等学校 生物」 (啓林館) | | 補助教材等 | セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) | | | |
| 科目の目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 | | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期中間 期末 考査まで | <p>第6章代謝 同化は主に光合成の反応を、異化は呼吸の反応を通して理解させ、それぞれがエネルギーの出入りや変換を行っていること、エネルギーの通貨としてATPが用いられていることを理解させる。光合成ではクロロフィルが光エネルギーの吸収・放出に関係することを理解させ、クロロフィルの違いを進化と光合成を関連づけて理解させる。呼吸では細胞の微細構造と関連させてクエン酸回路、電子伝達系などの存在とその役割に触れ、酵素によって複雑な反応が整然と行われることに気付かせる。</p> <p>第7章 遺伝現象と物質 DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子発現の調節を学び、DNAやタンパク質はどのようなしくみで複製や合成されるかを理解する。また 遺伝子はどのようなときに発現しているのかを考察する。</p> | | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | | | 振り返りシート等 |
| 定期考査等 | | | | | | | |
| 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 課題やレポート | | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | | | |
| 第1学期 期末 考査まで | <p>第8章 発生と遺伝子の発現 配偶子形成と受精、卵割から器官分化の始まりまでの過程について学ぶとともに、細胞の分化と形態形成のしくみを理解する。卵の中で局在している物質が、発生過程における分化に与える影響を考察する。</p> <p>第9章 バイオテクノロジー バイオテクノロジーの原理とその応用を見ていく。第10章 刺激の受容と反応 外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応するしくみを学び、刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。刺激の強さによる筋収縮の変化について考察する。</p> | | | | 知識 ・ 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 |
| | | | | | | | 振り返りシート等 |
| 定期考査等 | | | | | | | |
| 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 課題やレポート | | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | | | |
| 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | エネルギーの出入りとATPの分解・合成の関係がわかり呼吸のしくみが理解できる。発酵との共通点や相違点がわかる。二酸化炭素から糖をつくる炭酸同化がわかる。遺伝情報の複製のしくみがわかる。原核生物と真核生物との遺伝子の発現について理解し遺伝子の発現調節のちがいがわかる。 | | 呼吸によりエネルギーがつくられるしくみと発酵の共通点を理解し、解糖系やクエン酸回路、電子伝達系について考えることができる。光合成のしくみと光合成細菌や化学合成細菌について考えることができる。DNAの複製と遺伝子発現のしくみ、遺伝子情報の変化について考えることができる。原核生物と真核生物の遺伝子発現や転写調節の違いについて考えることができる。 | | 呼吸による有機物の分解や光合成に伴う有機物の合成の際にATPがはたす役割とエネルギーの出入りに注目する。呼吸の反応や光合成の反応が複数段階から成ることに関心をもつ。細菌の光合成や化学合成、生体内で窒素化合物がはたす役割について関心をもつ。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|----------------|--|--|--|-----------------------|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期中間 考查まで | <p>第11章 動物の行動 神経系と関連づけられる動物の行動を主に扱い、行動に生まれつきのものと学習によるものがあることを理解する。経験や学習は行動にどのように変化をもたらすかを考察する。</p> <p>第12章 植物の環境応答 植物の配偶子形成と受精、胚発生と種子の形成、花器官の分化について学ぶ。植物が周りの環境からの刺激に応答するしくみを学び、その際に植物ホルモンや光受容体が関係することを理解する。何が植物の成長を調節しているのかを考察する。</p> | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期期末 考查まで | <p>第13章 個体群と生物群集 生物の生活に影響を及ぼしている環境と生物との関係について理解する。同種の個体や異種の個体が相互作用を及ぼし合っていることを理解する。また、個体群レベルから順にそれぞれの段階で繰り返される生物の様々な営みと、環境との関係について理解する。個体群密度が与える植物の成長への影響を考察する。また同じ地域で生活する異種個体群の個体数の変動について考察する。</p> <p>第14章 生態系 生態系における物質生産とエネルギー効率について学ぶとともに、生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。エネルギーや物質の生態系内での移動や、人間の生活が与える生態系への影響を考察する。</p> | | | 知識 ・ 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 学年末 考查まで | <p>各章のまとめと復習 これまでの内容について、演習を通して、知識の定着を確認するとともに思考力や応用力の向上を図る。</p> | | | 知識 技能 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | <p>基礎的内容や語句について理解し、教科書や問題集の基礎的問題を解くことができる。</p> <p>基礎的内容や語句について理解し、実験についての考察や演習問題を解くことができる。</p> <p>これまでに学習した内容をもとに演習に積極的に取り組んだり、より高度な内容に興味を持ち演習に取り組んだりしようとする。</p> | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート |
| | | | | | 授業での活動 |
| | | | | | 振り返りシート等 |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|------------------------------|---|---|--|---|------------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系・総合理系 |
| 教科 | 理科 | 科目 | 生物演習 | 単位 | 1 必修 選択 |
| 使用教科書 | 「高等学校 生物」 (啓林館) | | 補助教材等 | セミナー生物基礎+生物 (第一学習社) | |
| 科目の目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と自然観を身につけるとともに、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解する。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 評価規準 | 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性 ・生物を比較し生物は多様ながら共通性を持ち、それは起源の共有に由来することを理解させる。 ・生物に共通する性質は細胞であり、原核細胞と真核細胞があることを内部構造と共に理解させる。 第2節 生物とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について呼吸と光合成の概要から理解させ、それらがATPの合成反応であると理解させる。 第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝子の本体と構造 ・DNAの構造や性質、関係性と、体細胞分裂の際に遺伝情報が伝えられる仕組みを理解させる。 第2節 遺伝情報とタンパク質 ・生命現象とタンパク質の関係を通して、タンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成される仕組みと、遺伝子は常に細胞内で発現しているわけではないことを理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等 | |
| | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 第3章 ヒトのからだの調節 第1節 情報の伝達と体内環境の維持 ・生物は恒常性により体内環境が保たれ、それは神経系と内分泌系により調節されることを理解させる。 ・体内環境がホルモンと自律神経の作用により調節される仕組みと、調節ができなくなったときに発症する疾患について理解させる。 第2節 免疫 ・免疫の仕組みと液性免疫や細胞性免疫について理解させる。 ・身近な免疫疾患を取り上げ、一次応答と二次応答について理解させる。 第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 ・生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物(植生)が存在することを理解させる。 ・植生はそれをとり巻く環境から影響を受けて変化(遷移)していくことを理解させる。 第2節 バイオーム ・気温や降水量の違いにより地球上には多くのバイオームが成立し、それらは遷移の結果、森林・草原・荒原となることを理解させる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等 | |
| | | | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 定期考査等 | |
| 第1学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | ○ | ○ | |
| | 評価規準 | ・すべての生物は共通した特徴をもつことを理解している。 ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解している。 ・転写と翻訳の過程の概略を理解している。 | ・生物にみられる特徴について説明できる。 ・光合成や呼吸において、ATPが利用される過程と、担う役割について説明できる。 ・塩基の相補性に着目し、DNAの複製のしくみを説明できる。 | ・資料からわかることを積極的に読み取るようとしている。 ・DNAの複製について、資料から読み取れることを積極的に説明しようとしている。 ・塩基配列とアミノ酸配列の関係を、資料から積極的に読み取るようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|-----------------------|---|---|--|---|---------------|---|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | 第5章 生態系とその保全 第1節 生態系と植物の多様性 ・生態系における生物の種多様性と生物間の関係性を物質とエネルギーの移動と関連付けて理解させる。 第2節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスと、人為的攪乱によりそのバランスが崩れる場合があることを理解させ、生態系保全の重要性を認識し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | 振り返りシート等 | | |
| 思考 判断 表現 | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 定期的 考查等 | 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | 第1部 生物の進化 第1章 生物の進化…生命の起源と進化の過程を地球環境の変化に関連させながら概要をつかませる。 第2章 有性生殖と遺伝的多様性…減数分裂による遺伝子の分配と受精によって遺伝的に多様な子孫が生じることを理解し、遺伝子の連鎖と組換えについて理解する。 第3章 進化のしくみ…進化の仕組みを学び、細胞の構造や構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物のもつ様々な特徴の比較から生物の系統関係を具体例を通して探究させる。 第4章 生物の系統…生物分類や系統をあきらかにする方法と原生生物の系統について学び、細胞の構造や構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物の特徴を比較し、具体例を用いて系統関係を探究させる。またドメインから種のレベルに至る分類の階層や種の命名法について具体的な例を示して把握させる。 | | | 知識 ・ 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | 振り返りシート等 | | |
| 思考 判断 表現 | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 定期的 考查等 | 課題やレポート | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | | |
| 観点別 評価 | 知識・技能 | ◎ | 思考・判断・表現 | ○ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・減数分裂とともに遺伝子の分配について理解し、遺伝子の変化が子に伝わる様子を考察できる。 ・現在の生物分類と系統を理解し、その分類の視点がどこに置かれていたのかを把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にもたらす変化を見いだして理解できる。 ・霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、違いや地球史との関連を表現することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとしている。 | | |
| 学年 末 考查まで | 第2部 生命現象と物質 第5章 生命現象と物質…細胞小器官や細胞とタンパク質の働きを理解し、代謝が酵素の触媒作用によって進められていることを理解させる。酵素はタンパク質から成り、生体内の化学反応だけでなく、物質の輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達など細胞内外の生物現象に関係することを理解させ、基質特異性について実験を通して探究させる。 第6章 代謝…同化は主に光合成の反応を、異化は呼吸の反応を通して理解させ、それぞれがエネルギーの出入りや変換を行っていること、エネルギーの通貨としてATPが用いられていることを理解させる。光合成ではクロロフィルが光エネルギーの吸収・放出に関係することを理解させ、クロロフィルの違いを進化と光合成を関連づけて理解させる。呼吸では細胞の微細構造と関連させてクエン酸回路、電子伝達系などの存在とその役割に触れ、酵素によって複雑な反応が整然と行われることに気付かせる。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート | |
| | | | | | 授業での活動 | |
| | | | | 振り返りシート等 | | |
| 思考 判断 表現 | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 観点別 評価 | 知識・技能 | ○ | 思考・判断・表現 | ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の基本的な構造と性質を理解し、酵素作用、物質輸送や情報伝達が、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。 ・ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解し、生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実験を通して生命現象に酵素が関わることに気付き、酵素には最適温度や最適pHがあることを考察することができる。 ・生物体にみられる様々な働きが、触媒作用をはじめタンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・分子レベルでの生物現象を把握しようと、タンパク質や核酸など有機化合物の働きが生物現象の基礎となることを理解しようとしている。 ・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------|--|--|---|--|----------------|--|----------|----|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 共通 | | | |
| 教科 | 保健体育 | 科目 | 体育 | | 単位 | 2 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | 現代高等学校保健体育 (大修館書店) | | 補助教材等 | アクティブスポーツ (大修館書店) | | | | |
| 科目の目標 | 運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに挑戦するために、運動の多様性や体力の必要性を理解し、技能を身につけるようにするとともに、課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を養う。また、運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> 運動の多様性や体力の必要性を理解している。 必要となる技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 課題を発見し、合理的・計画的な解決のために他者に伝える力を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・参画・共生などに対する意欲を身につけている。 健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第1学期 中間 考査 まで | 体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方を理解し、実生活に役立てること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、体づくり運動に主体的に取り組むことを通して、協力、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 陸上競技 ・多様な楽しさと喜びを味わい、技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、主体的に取り組み、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 | 知識 技能 | 授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 振り返りシート等 | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等 実技テスト等 | | |
| | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| | | | | | | | | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 陸上競技 ・技の名称や行い方などを理解するとともに、各種目特融の技能を身につけること、陸上競技に主体的に取り組むことを通して、公正、責任、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 球技 ア. ゴール型：サッカー イ. ネット型：バレーボール ウ. ベースボール型：ソフトボール ・技術の名称や行い方を理解し、仲間と連携しゲームを展開すること、球技に主体的に取り組むことを通して、公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を育み、健康・安全を確保することができるようにする。 体育理論 ①生涯スポーツの見方・考え方：ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。 ②ライフスタイルに応じたスポーツ：「現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。 | 知識 ・ 技能 | 授業での活動 実技テスト等 課題やレポート 実技テスト等 | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 実技テスト等 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | | |
| | | | | | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 体力の構成要素、実生活への取り入れ方、役立て方を理解している。 技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 各種目特有の技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 各運動に主体的に取り組む、互いに助け合い、高め合おうとしている。 勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 健康・安全を確保しようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|-----------------------|---|--|--|---|----------------|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | 球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、テニス ウ.ベースボール型：ソフトボール ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。 | | | 知識 技能 | 授業での活動 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| | 実技テスト等 | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | 球技 ア.ゴール型：フットサル、バスケットボール イ.ネット型：バレーボール、卓球 ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。 体育理論 ③スポーツを推進する取り組み：国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 | | | 知識 ・ 技能 | 授業での活動 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 作品や課題 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | 実技テスト等 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 | ・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる。 | ・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 | | |
| 学年 末 考查 まで | 球技 ア.ゴール型：ユニホック、バスケットボール イ.ネット型：バドミントン、卓球 ・勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、「する、みる、支える、知る」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方などを理解するとともに、仲間と連携しゲームを展開すること、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題に取り組み、考えたことを他者に伝え、公正・協力・責任・参画・共生などの意欲を育み、健康・安全を確保できる。 体育理論 ⑤豊かなスポーツライフの創造 ・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。 | | | 知識 技能 | 授業での活動 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 振り返りシート等 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 作品や課題 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 振り返りシート等 | 実技テスト等 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| | 授業での活動 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | ・技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解している。 ・各種目特有の技能を身につけている。 ・試合や発表会の仕方を理解している。 ・スポーツの効果的な学習の仕方を理解している。 | ・生涯にわたり運動を豊かに継続するため、自己や仲間の課題解決に向け取り組みを工夫している。 ・自己や仲間の考えを他者に伝えることができる | ・各運動に主体的に取り組み、互いに助け合い、高め合おうとしている。 ・勝敗を冷静に受け止め、ルールやマナーを守り、フェアプレーを大切にしようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|---|---|---|--|-----------------------------|---------------------------------------|----|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | | | |
| 教科 | 芸術 | 科目 | 音楽表現 | | 単位 | 2 | 必修 選択 | 選択 | |
| 使用教科書 | | 補助教材等 | | | | | | | |
| 科目の目標 | | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができ、主体的・協働的に音楽活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する真珠を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにさせる。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| | | 重点 | ○ | ◎ | ○ | | | | |
| | | 評価規準 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 | 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。 | 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。 | | | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | | |
| | | | | 観点 | 評価の手段 | | | | |
| 第1学期 中間 考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめのプレイリストを作ろう 自身がおすすめするアーティストの良さを知ってもらうためのプレイリストを作る。 ・歌唱 「花の街」 日本語の美しさを感じ取りながら、言葉の意味を理解して表現する。 | | | 知識 技能 | 作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等 | | | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等 | | | |
| | | | | | | 主体的に 学習に取 り組む 態度 | 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 実技テスト等 | | |
| 第1学期 期末 考査まで | <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱 「北秋の」 歌詞の意味や歌詞と旋律から情景を思い浮かべて表現して歌う。 ・創作 コード進行を理解して、伴奏をつけて発表する。 | | | 知識 ・ 技能 | 作品や課題 授業での活動 実技テスト等 | | | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 授業での活動 実技テスト等 | | | |
| | | | | | | 主体的に 学習に取 り組む 態度 | 授業での活動 作品や課題 振り返りシート等 実技テスト等 | | |
| 第1学期 | | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| | | | | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | | 評価規準 | ・おすすめする曲について音楽的な視点もち音楽理論を用いて良さを理解している。 ・歌詞の意味を理解して、曲にふさわしい言葉の発音ができています。 ・コード進行について理解している。 | ・自身が感じる曲の良さを他者へ伝えるために、客観的に曲を評価し最適な表現を考えている。 ・歌詞の意味や情景を思い浮かべながら表現しようとしている。 ・コードを使って伴奏を考えたり、表現しようとしている。 | ・アーティストの魅力を知ってもらうために積極的に調べるなど活動を行っている。 ・歌唱や創作活動に主体的に取り組んでいる。 | | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|---|--|---|--|--------------------|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・ 器楽 「リコーダーアンサンブル」 演奏方法や技能を身に付け、奏法によって音色や響きが違いが生み出されることを理解する。また自身のメロディーを演奏しながらハーモニーを聴き、音楽の良さや美しさを感じる。 ・ 歌唱 「ふるさとの空」 曲想と歌詞や文化的背景、郷土の伝統音楽を理解して、音楽の美しさを感じて歌う。 | 知識 技能 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | 授業での活動 | |
| | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | 授業での活動 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| 第2学期 期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞 「交響曲第9番 合唱付き」 作曲家について知り、曲が作られた背景について理解する。また実際にCDのオーケストラを伴奏として歌唱してみる。 ・ 創作 コード進行を応用して、メロディーやそのメロディーに対して伴奏を作り、理解を深める。 | 知識 ・ 技能 | 作品や課題 | | 振り返りシート等 | 授業での活動 |
| | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 | 振り返りシート等 | 授業での活動 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 作品や課題 | 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作曲者や曲が作られた背景について理解して歌唱している。 ・ 読譜の方法やリコーダーの奏法について理解している。 ・ 曲想と音楽の構造の関わりを理解している。 ・ コード進行について理解し | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の意味を考え、伝わるように歌唱している。 ・ 曲に対する評価やその根拠を考えている。 ・ コードを使ってメロディーや伴奏を考えたり、表現しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱活動に取り組んだり、歌詞の意味を考えたり、リコーダーを演奏したりする活動、また鑑賞活動、創作活動に主体的に取り組もうとしている。 | | |
| 学年 末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌唱 「上を向いて歩こう」、「蛍の光」 「上を向いて歩こう」では、どのように歌いたいのか、どんな演奏方法で演奏するのか、自ら考え、他者と創意工夫をしながらアンサンブルを楽しむ。「蛍の光」が「蛍雪の功」のことわざを由来にしていることについて理解し、歌詞の意味を自ら考えながら理解する。また、卒業式での歌唱に挑む。 | 知識 技能 | 授業での活動 | 振り返りシート等 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 授業での活動 | 振り返りシート等 | 実技テスト等 |
| | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「上を向いて歩こう」の歌詞や文化的背景を理解している。 ・ 「蛍の光」の歌について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽表現を創意工夫して、他者とのアンサンブルを通して、表現している。 ・ 「蛍の光」の歌詞の意味について自らの力で考えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の意味を考えたり歌うことを主体的に取り組もうとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|--------------------|---|--|---|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | |
| 教科 | 芸術 | 科目 | 美術表現 | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | | 補助教材等 | | | | | |
| 科目の目標 | | 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めさせ、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えさせ、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | 重点 | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | 評価規準 | ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。 | ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 | ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 考査まで | 【表現・鑑賞】デザイン アドデザイン ・架空の会社や団体などを想定し、その事業や商品の中吊り広告を制作する。 ・広告に必要な要素とそのデザインについて考え、効果的な広告表現ができるようになる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 観 点 | | | |
| | | | | 評 価 の 手 段 | | | |
| | | | | 作品や課題 振り返りシート等 授業での活動 | 作品や課題 振り返りシート等 課題やレポート | 主体的に 学習に取 組む態度 | |
| 第1学期 期末 考査まで | 【表現・鑑賞】美術探究 ・美術史や、美術に関するキーワードから美術の役割について考察し、自分の考えを表現する。 ・日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから伝統や文化の価値を感じ取り、国際理解に果たす美術の役割や美術文化の継承、発展、創造することの意義について考え、見方や感じ方を深めることができるようになる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 観 点 | | | |
| | | | | 評 価 の 手 段 | | | |
| | | | | 課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 | 課題やレポート 振り返りシート等 授業での活動 | 主体的に 学習に取 組む態度 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | | | |
| | | ○ | ◎ | ○ | | | |
| | | ・造形の要素の働きを理解している。 ・主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができている。 | ・目的や条件などを基に、デザインの社会的な役割について考察して独自の主題を生成し、主題に応じた表現効果を考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練ることができている。 | ・主体的にデザインの創造活動に取り組もうとしている。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | | |
|---------------------|---|----------------|---------------|--------------------|---|--------------|--|---------------------------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | | |
| 第2学期 中間 考査まで | 【表現・鑑賞】デザイン 交通安全啓発デザイン <ul style="list-style-type: none"> PowerPointを用いて交通安全を啓発する缶バッジの図柄をデザインする。 視認性とメッセージ伝達性の高いグラフィックデザインができるようになる。 | | | 知識 技能 | 作品や課題 | | | |
| | | | | | 振り返りシート等 | | | |
| | | | | | 授業での活動 | | | |
| 第2学期 期末 考査まで | 【表現・鑑賞】映像メディア表現 アニメーション制作 <ul style="list-style-type: none"> 2学期前半で制作した作品をもとに、図柄が動くアニメーションを制作する。 PowerPointを用いて映像メディア表現の特性を生かした創造的な表現のアニメーション動画が制作できるようになる。 | | | 知識 ・ 技能 | 作品や課題 | | | |
| | | | | | 振り返りシート等 | | | |
| | | | | | 授業での活動 | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | ・造形の要素の働きを理解している。 ・主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができている。 | | | |
| | | | | | | 評価 規 準 | ・映像メディアの特性を生かして独創的な主題を生成し、主題に応じた表現の可能性や効果について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練ることができている。 | ・主体的にデザインおよび映像メディア表現の創造活動に取り組もうとしている。 |
| | | | | | | | | |
| 授業での活動 | | | | | | | | |
| 学年 末 考査 まで | 【表現・鑑賞】テーマ別探究活動 ・生徒が興味・関心に沿って自らテーマを設定し、調査・探究活動を行う。 | 思考 判断 表現 | 課題やレポート | | | | | |
| | | | 振り返りシート等 | | | | | |
| | | | 授業での活動 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | ・設定したテーマに関する作品や事例等について理解している。 ・適切な情報を発見する技能を身につけている。 | | | |
| | | | | | | 評価 規 準 | ・設定したテーマに関する作品や事例等について、見方や感じ方を深めている。 | ・主体的に設定したテーマについての調査・探究活動に取り組もうとしている。 |
| | | | | | | | | |
| 課題やレポート | | | | | | | | |
| 授業での活動 | | | | | | | | |

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------------|---|---|--------------|--|---------------|--|---------------------------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 共通 | | |
| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語コミュニケーションⅢ | 単位 | 4 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | 「BIG DIPPER English CommunicationⅢ」 (教研出版) | | 補助教材等 | | | | |
| 科目の目標 | <p>英文の内容に関する話題や社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用せずに、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を読んだり聞いたりして、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができるようにする。また、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | <p>英文の内容に関する話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握することができる知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続ける技能、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる知識、技能を身に付けている。 | | <p>・英文の内容に関する話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けたり、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えている。 | | <p>・英文の内容に関する話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした話の展開や話し手の意図を把握しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けたり、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | <p>LESSON 1 Is the Meat Real or Fake? (代替肉が注目される理由や今後の課題などについて)</p> <p>LESSON 2 Let's Have a Healthy Workout (筋力トレーニングの効果や注意点などについて)</p> <p>LESSON 3 My Opinion of Zoos (動物園の存在に対する賛成・反対の意見などについて)</p> <p>LESSON 4 The History of Ekiben (駅弁の歴史などについて)</p> <p>LESSON 5 Three Tips for Maintaining a Conversation (会話を続けるコツなどについて)</p> <p>LESSON 6 The History of Recorded Music (記録音楽の歴史などについて)</p> <p>LESSON 7 Online Word-of-Mouth (飲食店に対する口コミ評価などについて)</p> <p>英文を読み、内容に関する問いに答える形式で概要を捉える。「例示」や「言い換え表現」等の読解に関する表現を学ぶ。学習した語句や文法事項を用いて自分の意見や読み取った情報を書く、または、ペアに伝えたりする形で発表する。</p> | | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 |
| | | | | | | 実技テスト等 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | <p>LESSON 8 After the Flowers (植物の生存戦略などについて)</p> <p>LESSON 9 Hot Springs at Home and Abroad (日本と海外の温泉地の違いなどについて)</p> <p>LESSON 10 Kintsugi (日本の伝統技術「金継ぎ」について)</p> <p>LESSON 11 Art on Display (博物館の営業案内リーフレットについて)</p> <p>LESSON 12 Can You Manage Your Anger? (怒りの感情をコントロールする方法などについて)</p> <p>LESSON 13 Crowdfunding (クラウドファンディングの利点・欠点などについて)</p> <p>LESSON 14 A New Orchestra and a New Harmony (パラグアイの新しいオーケストラについて)</p> <p>英文を読み、内容に関する問いに答える形式で概要を捉える。「対比」や「譲歩」等の読解に関する表現を学ぶ。学習した語句や文法事項を用いて自分の意見や読み取った情報を書く、または、ペアに伝えたりする形で発表する。</p> | | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 |
| | | | | | | 実技テスト等 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価 規準 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | | <p>・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | | <p>・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | | <p>・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | |
|--|---|------------|---------------|--------------------|---|------|---|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第2学期 中間 考查まで | LESSON 15 Instant Replay in Sports （スポーツのビデオ判定システムについて） LESSON 16 Endangered Languages （危機言語のおかれた状況について） LESSON 17 Is This the Right Way to Protect the Environment? （環境を守るためのさまざまな試みについて） 英文を読み、内容に関する問いに答える形式で概要を捉える。本文の内容（分野）に関する語彙や表現を学び、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見や読み取った情報を書く、または、ペアに伝えたりする形で発表する。 | | | 知識・技能 | 定期考査等 | | |
| | | | | | 実技テスト等 | | |
| | | | | 思考・判断・表現 | 振り返りシート等 | | |
| 授業での活動 | | | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | LESSON 18 The Shoe That Grows （アフリカの教育事情や「成長する靴」について） LESSON 19 Fake News （フェイクニュースの特徴とそれが生まれる要因について） LESSON 20 Human Society and Infectious Diseases （人間社会の発展と感染症の関係について） 英文を読み、内容に関する問いに答える形式で概要を捉える。本文の内容（分野）に関する語彙や表現を学び、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見や読み取った情報を書く、または、ペアに伝えたりする形で発表する。 | | | 知識・技能 | 定期考査等 | | |
| | | | | | 実技テスト等 | | |
| | | | | 思考・判断・表現 | 振り返りシート等 | | |
| 授業での活動 | | | | | | | |
| 第2学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | | |
| | | | | | | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 |
| | | | | | | | |
| LESSON 21 Face Recognition Technology （顔認証技術について） LESSON 22 The Life and Achievements of Harriet Tubman （ハリエット・タブマンの生涯について） LESSON 23 Maya's Presentation about Earthquakes in Japan （日本の地震災害と防災について） LESSON 24 The three Approaches to Living Together （「永遠に生きる方法」について） 英文を読み、内容に関する問いに答える形式で概要を捉える。本文の内容要約をしたりリテリングする活動を行う。また、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見をペアに伝えたり発表したりする。 | 知識・技能 | 実技テスト等 | | | | | |
| | | 振り返りシート等 | | | | | |
| | 思考・判断・表現 | 授業での活動 | | | | | |
| 授業での活動 | | | | | | | |
| 学年末 考查まで | 主体的に学習に取り組む態度 | 実技テスト等 | | | | | |
| | | 課題やレポート | | | | | |
| | | 授業での活動 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | <ul style="list-style-type: none"> ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | | |
| | | | | | | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 |
| | | | | | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|---|---|--------|---|---------------------------------------|---|----------|----|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 共通 | | | |
| 教科 | 外国語 | 科目 | 論理・表現Ⅲ | | 単位 | 2 | 必修 選択 | 必修 |
| 使用教科書 | be English Logic and Expression Ⅲ Clear (いいずな書店) | | 補助教材等 | 総合英語 be English Grammar30 (いいずな書店) | | | | |
| 科目の目標 | 言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うとともに、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念として理解したり、技能を習得したりしている。 | | 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。 | | 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 知識 技能 | LESSON1 A City Worth Visiting 国内外の街に関する文章について情報を整理、理解し、話したり文章を書いたりする。伝えたいことに応じて受動態を正しく使うことができるよう学習する。 | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 実技テスト等 振り返りシート等 | | | |
| | | LESSON2 Our Hometowns 街の課題に関する文章について情報を整理、理解する。また、街の課題について話したり文章を書いたりする。動詞の形を意識し、伝えたいことに応じて動詞を正しい形で使うことができるよう学習する。 | | | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | | | |
| | | LESSON3 What Makes a City Attractive? 街づくりの提案に関する文章について情報を整理、理解し、提案について話したり文章を書いたりする。話し手がどう思っているかや、伝えたい意味に応じた助動詞で表現することができるよう学習する。 | | | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | | | |
| 第1学期 期末 考査 まで | 知識 ・ 技能 | LESSON4 How Do You Spend Your Time? ひとり時間の過ごし方に関する文章について、情報を整理、理解し、自分のことについて話したり文章を書いたりする。比較対象を意識して、伝えたい意味に応じて適切に比較の表現を使うことができるよう学習する。 | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 実技テスト等 振り返りシート等 | | | |
| | | LESSON5 Try Something New スポーツについて情報を整理し理解し、話したり、文章を書いたりする。差の程度を表す表現を学び、伝えたいことに応じて正しく表現できるよう学習する。 | | | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | | | |
| | | LESSON6 The Art of Translation 映画の日本語版と英語版の違いについて情報を整理、理解し、それぞれの違いについて話したり文章を書いたりする。副詞や形容詞で程度を表す表現を学び、伝えたい程度に応じて正しく使うことができるよう学習する。 | | | 主体的に 学習に 取り組 む態度 | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 評価 規 準 | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| | | ・習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。 ・学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | | ・学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。 ・本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。 | | ・知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|-----------------------|---|---|---|--|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | <p>LESSON7 Combatting Climate Change 環境問題について情報を整理、理解し、環境問題について話したり文章を書いたりする。関係代名詞を使って名詞に説明を加える表現を学び、伝えたい意味に応じて適切な関係代名詞を用いて文を作ることができるよう学習する。</p> <p>LESSON8 FutureEnergy Sources 再生可能エネルギー、洋上電力発電について情報を整理、理解し、エネルギーについて話したり文章を書いたりする。分詞で名詞に説明を加える表現を学び、伝えたい意味に応じて分詞を正しく使うことができよう学習する。</p> <p>LESSON9 Discussing the Environment 環境問題に関する意見について情報を整理、理解し、自分の意見について話したり文章を書いたりする。不定詞で名詞に説明を加える表現を学び、伝えたい意味に応じて不定詞を正しく使うことができるよう学習する。</p> | | | 知識 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 実技テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 |
| 実技テスト等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | <p>LESSON10 Globalization and Immigration 外国人労働者の受け入れについて情報を整理、理解し、自分に意見について話したり文章を書いたりする。「～すること」を表す不定詞を学び、伝えたい意味に応じた表現を用いて文を作ることができるよう学習する。</p> <p>LESSON11 What is Fair Trade? フェアトレードについて情報を整理、理解し、自分の意見を話したり文章を書いたりする。「～すること」を表す動名詞を学び、伝えたい意味に応じて動名詞を用いて文を作ることができるよう学習する。</p> <p>LESSON12 Helping to Fight Poverty 世界の貧困について情報を整理、理解し、世界の貧困についての自分の考えを話したり文章を書いたりする。副詞のはたらきをする不定詞を学び、伝えたい意味に応じて正しく使うことができるよう学習する。</p> | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 |
| | | | | | 実技テスト等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| 振り返りシート等 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | | | | |
| | 振り返りシート等 | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。 ・学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。 ・本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。 | ・知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けるたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。 | |
| 学年 末 考查まで | <p>Option1 Plurilingualism 複言語主義について自分の考えをまとめ書いたものをもとにグループで考えたり話し合う活動を行う。</p> <p>Option2 The Benefit of Learning a Second Foreign Language 第二外国語学習の意義等についてペアで話し合ったり文章を書いたりし、発表する活動を行う。</p> <p>Option3 English as an Official Language 英語の公用語化についてグループで考えたり話し合ったりする。ディベート形式について触れ、立論・反論例の情報を整理、理解する。</p> | | | 知識 技能 | 実技テスト等 |
| | | | | | 振り返りシート等 |
| | | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 |
| 授業での活動 | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 振り返りシート等 | | | | |
| | 授業での活動 | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・習得すべき知識や重要な概念を理解し、既知の技能と関連付けたり活用したりすることができる。 ・学んだ知識を用いて、本文の内容を把握し、事実や自分の考えを書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・学習した知識を用いて、話者や筆者の文章の意図を理解することができる。 ・本文の内容について、相手に伝わるように自分の意見を話したり、書いたりすることができる。 | ・知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けるたりするために粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準



| | | | | | | | |
|------------------------|--|---|-------|--|---------------------------|---|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | |
| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語演習A | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | Joy Reader ② (数研出版) | | | |
| 科目の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・論旨が明確な比較的短い英文について、話の展開に注意しながら、概要や要点を捉えることができる。 ・言語や文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深め、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付け、適切に表現したり伝えあったりすることができる。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、適切に活用できる技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・論旨が明確な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉えている。 ・場面、状況などに応じて、情報や考えなどを、論理性に注意して伝えることができる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・英文の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画 (学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第1学期 中間 考査 まで | <p>The Secret History of Potatoes ジャガイモの変遷についての文章を読み、時系列に情報を整理し、理解する。名詞を後ろから説明するカタマリを見抜き、文の構造を理解する。</p> <p>What Are the Hotels Made of? ソルトバレスホテルについての文章を読み、地理的特性をもとに概要を把握し、現状を理解する。意味のかたまりごとに英語を語順通りに理解し、読むスピードが速くなるコツを掴む。</p> <p>Coffee on the Wall 筆者がベニスで体験したことについての文章を読み、イタリアにおける親切心を理解し、整理して伝えることができる。語 (句) と語 (句) をつなぐ接続詞の働きを理解し、正しく使うことができる。</p> | | | | 知識 技能 | 定期考査等 | |
| | | | | | | 実技テスト等 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | <p>Who Paid the Money? ユーモアを含む文章を読み、ユーモアとはどのようなもので、どのような作用があるのかを理解する。代名詞itのさまざまな用法について理解し、正しく文を把握することができる。</p> <p>What the Boy Really Wanted 父親と息子のやりとりを描いた文章を読み、親子のつながりややり方について、大切にしなければならないことを理解する。接続詞becauseの使い方について学び、理由と結果を表すそれぞれの節を区別できるようにする。</p> <p>April Fool's Day エイプリルフールに起きた出来事について書かれた文章を読み、登場人物二人の行動の違いを考察する。文中で省略されている語を正しく理解することができる。</p> | | | | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | |
| | | | | | | 実技テスト等 | |
| | | | | | | 振り返りシート等 | |
| | | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 実技テスト等 | |
| | | | | | | 課題やレポート | |
| | | | | | | 授業での活動 | |
| | 観点別 評価 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | ◎ | | ○ | | ○ | |
| | 評価 規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身につけている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|---------------------|--|---|---|---|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | Unique Houses Around the World 気候、地域、生活様式に応じたさまざまな家屋についての文章を読み、環境と人々の生活の関係についての主題を読み取ることができる。形式主語と後置修飾について理解を深め、正しく使うことができる。 | 知識 技能 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| | | | 授業での活動 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 実技テスト等 |
| 第2学期 期末 考查まで | A Wise Judgement 貧乏学生と料理店主との間に起きた裁判についての文章を読み、裁判官が下した判決の真意について考察する。3文型と4文型における節を含む目的語を正しく理解できる。 | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| | | | 授業での活動 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | 実技テスト等 |
| 第2学期 学年末 考查まで | The Inspiration and Hard Work Behind an Invention 今日ある付箋の始まりに関する文章を読み、科学者たちのひらめきと努力が今ある生活を基盤を支えていることを理解する。さまざまな不定詞の用法について理解し、正しく使うことができる。 | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | |
| 第3学期 | Careful Observation 科学における観察することの重要性に関する文章を読み、文章から得る教訓について考察する。挿入句を含む英文の構造を理解し、各要素（S, V, O, C）を正しく見抜くことができる。 | 知識 技能 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | 授業での活動 |
| | | | 授業での活動 | | |
| | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | No Problem! 有名な川渡り問題の由来となった文章を読み、特定の条件を満たしながら答えを導く論理性の重要性を理解する。There is…の文における主語と動詞について理解し、正しく使うことができる。 | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | 課題やレポート | 授業での活動 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規 準 | ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|--|----------------|---|----------|---|---|--|---|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 文系・総合文系 | | | | | |
| 教科 | 外国語 | 科目 | 英語演習B | | 単位 | 2 | 必修 選択 | | | |
| 使用教科書 | | | 補助教材等 | Viewpoint Standard (数研出版) | | | | | | |
| 科目の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、話の展開に注意しながら、概要や要点を捉えることができる。 ・言語や文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深め、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付け、適切に表現したり伝えあったりすることができる。 | | | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | | | |
| | 重点 | ◎ | | ○ | | ○ | | | | |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、適切に活用できる技能を身につけている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に捉えている。 ・場面、状況などに応じて、情報や考えなどを、論理性に注意して伝えることができる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | | | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | | | |
| | | | | | 観 点 | 評価の手段 | | | | |
| 第1学期 中間 期末 まで | Lesson1 外国の贈り物の変遷についての文章を読み、時系列に情報を整理し、理解する。名詞を後ろから説明するカタマリを見抜き、文の構造を理解する。 Lesson2 外国の農業についての文章を読み、地理的背景をもとに概要を把握し、現状を理解する。名詞句を後ろから説明する構造を理解する。 Lesson3 コカ・コーラの誕生についての文章を読み、コカ・コーラ誕生のきっかけ理解し、整理して伝えることができる。語（句）と語（句）をつなぐ接続詞の働きを理解し、正しく使うことができる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期検査等 | 実技テスト等 | | | | |
| | | | | | 振り返りシート等 | 授業での活動 | | | | |
| | | | | | 定期検査等 | 実技テスト等 | | | | |
| 第1学期 期末 まで | Lesson4 ローフードに関する文章を読み、ローフード運動がどのようなもので、どのような利点があるのかを理解する。ローフード運動について自分の考えを述べることができる。副詞、副詞句、副詞節の挿入について理解し、正しく文を把握することができる。 Lesson5 海洋ほ乳類についての文章を読み、海洋ほ乳類の睡眠について、以前考えられていた内容と、新しく発見された内容を理解する。接続詞thatの使い方について様々な表現を学び、関係代名詞のthatと区別できるようにする。 Lesson6 ネット検索について書かれた文章を読み、ネット検索の利点と欠点、また、ネット検索以外の検索方法について考える。what節を名詞のカタマリと理解し、それを使って適切に表現することができる。 | 知識 技能 | 思考 判断 表現 | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 定期検査等 | 実技テスト等 | | | | |
| | | | | | 振り返りシート等 | 授業での活動 | | | | |
| | | | | | 定期検査等 | 実技テスト等 | | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| | | | | | | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | |
| | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | |
|--------------------|---|---|---|---|----------|----------|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | |
| 第2学期 中間 考查まで | Lesson7 ストレスについての文章を読み、ストレスと習慣の関係についての主題を読み取ることができる。主題を支えるある調査について正しくまとめることができる。「同じ働きをする」節と節をつなぐ接続詞について理解を深め、正しく使うことができる。 Lesson8 脳や神経が錯覚を起こす仕組みについての文章を読み、どのような仕組みで錯覚が起きるのか、また、なぜ錯覚を起こすようになったのかを理解する。前置詞のあとには名詞のカタマリがくることを理解し、正しく使うことができる。 Lesson9 完ぺきな紅茶の入れ方について、様々な立場からの主張を読み取り、主張の理由をまとめることができる。名詞と名詞が連続した場合の同格の関係を理解し、正しく文の構造を把握することができる。 | 知識 技能 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | | |
| | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| | | | | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | |
| 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | Lesson10 手を使わずに機械を動かす技術についての現状を読み取り、今後の展望について考えたり、伝え合ったりすることができる。省略表現について様々な例に触れ、前文や文の前半から元の形を補うことができる。 Lesson11 現在、多くの食べ物が世界中から輸入されて私たちの食卓に並んでおり、そのためどのような環境への負担があるのかを理解する。フードマイルという考え方が非常に重要な数値であることを理解し、自分の食卓について実際に考えてみる。強調構文の文に慣れ、正しく形式主語の文と見分けることができるようになる。 Lesson12 動物の意思伝達に関する文章を読み、動物による伝達方法の違いを読み取り、科学者が今後求めていることについて理解する。2つの語がまとまって1つの表現になっているものに対応し、予測しながら文章を読めるようになる。 | 知識 ・ 技能 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | | |
| | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 |
| | | | | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | |
| 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | |
| | 評価 規 準 | ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | | | |
| 学年 末 考查まで | Lesson13 杉原千畝に関する文章を読み、彼の功績と、彼に対する評価の変遷を理解する。杉原氏の行動がどのような時代背景の中で行われたかを考え、自分の考えを伝え合うことができる。分詞構文が主文の情報を補足することを理解し、適切に文の構造を見抜くことができる。 Lesson14 肉を摂取することが、脳を成長させ、人類を進化させたという主張の根拠を理解することができる。「調理」と脳の関係について考察できる。動詞を名詞化した英語独特の表現に触れ、正しく内容を把握することができる。 Lesson15 音楽療法の歴史を理解したうえで、音楽療法にとって大切なことを理解する。また、音楽療法に限らず、治療法において、療士が目指すものを考えることができる。倒置の文を見抜き、新しい情報を強調するための文構造を理解する。 | 知識 技能 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | 授業での活動 | | |
| | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 授業での活動 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | |
| | | | | 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | |
| 定期考査等 | 実技テスト等 | 振り返りシート等 | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | |
| | 評価 規 準 | ・注釈の語彙の意味や言語材料の用法の理解を基に本文の概要をとらえる知識を身に付けている。 ・本文内容に関する話題について、支援をほとんど活用しなくても事実や自分の考えを整理し、書いたり話したりして伝える技能を身に付けている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしている。 | ・本文全体の理解を深めるために、本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・本文内容に関する話題について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたり話したりしようとしている。 | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---|---|----------------|--|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合文系 | | |
| 教科 | 家庭 | 科目 | ライフデザイン | | 単位 | 2 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) | | 補助教材等 | 最新生活ハンドブック 家庭 資料&成分表 (第一学習社) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) | | | |
| 科目の目標 | 自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断する。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現する。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | |
| | 評価規準 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。 | 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。 | | | |
| 期間 | 学習指導計画 (学習内容とそのねらい) | | | | 観点別評価 | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | 家庭科の学び方ー学習から実践へ ○家庭基礎演習を学ぶにあたって ・自分自身について客観的に知る。 ・生涯を見通して人の一生について考える。 ・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ○保育分野 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ(調理実習)を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | 知識 技能 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 | |
| | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第1学期 期末 考査 まで | ○保育分野 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ(調理実習)を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 ○消費者分野 ・消費行動における意思決定のプロセスについて考え、資源・環境に配慮した各自の生活スタイルの在り方を意識する。 【期末考査】 | 知識 技能 | 実技テスト等 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 | |
| | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | | 思考・判断・表現 ○ | | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | |
| | 評価 規準 | 生活を主体的に営むために必要な、ライフデザイン、保育分野、消費生活分野に関する基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | ライフプラン、保育分野、消費生活分野の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|--------------------|--|--|--|---|----------------|----------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者福祉分野 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、日本の高齢化の現状 ・地域での助け合いの活動、共生社会 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。 ○保育分野 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ（調理実習）を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | | | 知識 技能 | 実技テスト等 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○SDGsについて <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識することができる。 ○高齢者福祉分野 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、日本の高齢化の現状 ・地域での助け合いの活動、共生社会 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか、さらに深く考える。 ○保育分野 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ（調理実習）を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | | | 知識 ・ 技能 | 実技テスト等 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | | |
| 学年末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○一人暮らし対策 <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナー、一人暮らし対策卒業後の暮らしの対策になるような豆知識的な事柄を中心に知る。 ・防災についての意識を高める。 | | | 知識 技能 | 作品や課題 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | | | 振り返りシート等 |
| 第3学期 | <ul style="list-style-type: none"> ○一人暮らし対策 <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナー、一人暮らし対策卒業後の暮らしの対策になるような豆知識的な事柄を中心に知る。 ・防災についての意識を高める。 | | | 知識 技能 | | 作品や課題 |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | | | 振り返りシート等 |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | 生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、SDGs、家族や高齢者、保育分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | 消費生活、環境、SDGs、家族や高齢者、保育分野の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |
| | | 生活を主体的に営むために必要な家庭科全般の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | 各自の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |
| 観点別 評価 | | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| 第3学期 | 評価 規 準 | 生活を主体的に営むために必要な家庭科全般の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | 各自の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|--------------------------------------|---|-----------------------------|--|--|--|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合理系 | | | |
| 教科 | 家庭 | 科目 | ライフデザイン | | 単位 | 1 | 必修 選択 | |
| 使用教科書 | 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) | | 補助教材等 | 最新生活ハンドブック 家庭 資料&成分表 (第一学習社) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会) | | | | |
| 科目の目標 | 自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断する。また、課題解決の学習から導き出した考えを的確に表現する。 | | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | | |
| | 評価規準 | 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。 | | 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 | | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。 | | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | | |
| 第1学期 中間 期末 考査 まで | | ○家庭基礎演習を学ぶにあたって ・自分自身について客観的に知る。 ・生涯を見通して人の一生について考える。 ・ライフステージごとの特徴・課題を理解する。 ○保育分野 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | 知識 技能 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 | | | |
| | | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | | | 作品や課題 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| 第1学期 期末 考査 まで | ○保育分野 ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 ○消費者分野 ・消費行動における意思決定のプロセスについて考え、資源・環境に配慮した各自の生活スタイルの在り方を意識する。 【期末考査】 | 知識 技能 | 実技テスト等 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 実技テスト等 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | 思考 判断 表現 | 実技テスト等 課題やレポート 作品や課題 授業での活動 | | | | |
| | | | | 主体的に 学習に 取り組む 態度 | 作品や課題 授業での活動 振り返りシート等 | | | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 | | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価 規準 | ◎ 生活を主体的に営むために必要な、ライフデザイン、保育分野、消費生活分野に関する基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | | ○ ライフプラン、保育分野、消費生活分野の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | | ○ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | |
|-----------------------|--|--|--|---|----------------|---------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | |
| 第2学期 中間 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○高齢者福祉分野 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、日本の高齢化の現状 ・地域での助け合いの活動、共生社会 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。 ○保育分野 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわりについて考える。 ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ（調理実習）を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | | | 知識 技能 | 実技テスト等 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | | | | | |
| | 作品や課題 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| 第2学期 期末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○SDGsについて <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識することができる。 ○高齢者福祉分野 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題、日本の高齢化の現状 ・地域での助け合いの活動、共生社会 ・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか、さらに深く考える。 ○保育分野 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食生活、衣生活、遊びについて学び、グループごとに子ども対象の壁面作品や絵本、おやつ（調理実習）を作る。 ・壁面作品は季節ごとに製作する。 | | | 知識 ・ 技能 | 実技テスト等 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 作品や課題 |
| | | | | | | 課題やレポート |
| 授業での活動 | | | | | | |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 実技テスト等 | | | | | |
| | 作品や課題 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | 生活を主体的に営むために必要な消費生活、環境、SDGs、家族や高齢者、保育分野の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | 消費生活、環境、SDGs、家族や高齢者、保育分野の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |
| 学年 末 考查まで | <ul style="list-style-type: none"> ○一人暮らし対策 <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナー、一人暮らし対策卒業後の暮らしの対策になるような豆知識的な事柄を中心に知る。 ・防災についての意識を高める。 | | | 知識 技能 | 作品や課題 | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート |
| | | | | | | 授業での活動 |
| 主体的に 学習に取り 組む態度 | 振り向きシート等 | | | | | |
| | 作品や課題 | | | | | |
| | 課題やレポート | | | | | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | |
| | 評価 規 準 | 生活を主体的に営むために必要な家庭科全般の基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 | 各自の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。 | | |

※「◎」特に重視する観点

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | | |
|----------------|--|--|---|---|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | | |
| 第2学期中間 考查まで | 第4章 ネットワークとセキュリティ ・通信方式の種類について説明でき、目的に沿った情報機器の接続を考える。 ・インターネットの階層構造などを理解し、IPアドレス等の仕組みを説明する。 ・WWWや電子メールなどインターネットサービスの内容と仕組みを理解する。 ・通信データの転送速度とファイル圧縮について理解し転送する。 ・情報セキュリティの考え方やマルウェアの種類、被害の実態について理解する。 ・アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択する。 ・暗号化の方式と仕組みを理解し、情報セキュリティ対策をする。 第5章 問題解決とその方法 ・ブレーンストーミング等を用い、問題の発見・解決のための活動に参画する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・解決案を検討するため必要な情報を収集・整理する。 ・合意形成を目指し、問題解決のための資料作成や程表を作成する。 ・問題解決にあわせた評価を計画・実施、分析して結果をまとめる。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート 授業での活動 | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | | 定期考査等 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | |
| 第2学期期末 考查まで | ・データの種類と尺度水準について理解し、データを収集、整理する。 ・表計算ソフトを用いたデータの処理ができ、データを選択して収集する。 ・グラフの種類や機能を理解し、目的に応じデータを可視化して表現する。 ・相関係数を用いた分析など、問題解決のためのデータ分析の手法を選択し、分析結果を効果的に表現する。 ・データベースの意味と必要性を理解し、分析結果について改善する。 ・モデル化、シミュレーションについて理解し、それらが問題解決でどのように利用されているか説明する。 ・モデル化を理解し、表現形式や対象の特性によつて分類する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、問題整理や問題の構造モデルを作成する。 ・動的に変化する現象を図的モデルで表すため表計算ソフトを用いて表現する。 ・シミュレーションの意義について理解する。 ・モンテカルロ法を理解し、それを用いたシミュレーションを行う。 ・待ち行列を事例にモデル化とシミュレーションによる問題解決を行い、確定的モデルのシミュレーションの過程を表やグラフで表現する。 | | | 知識 ・ 技能 | | 定期考査等 | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | | |
| | 評価 規 準 | ・情報通信ネットワークの構成や仕組みと情報セキュリティの方法について理解している。 ・問題解決の目的やデータの取り扱いを理解し、分析手法や表計算ソフトの利用を提示できる。 ・モデル化やシミュレーションの内容を理解し、表計算ソフトの関数を選択できる。 | ・情報の安全確保のため、適切な行動がとれる。 ・問題解決のための活動に積極的に参加し、解決案やグループの合意形成を立案できる。 ・表計算ソフトを用いてモデル化やシミュレーションを作成できる。 | ・インターネットの仕組みやサービスの問題について検討しようとしている。 ・問題解決の結果を振り返り、改善を図ろうとしている。 ・作成したモデルやシミュレーションを個人あるいは相互に評価している。 | | | | |
| 学年末 考查まで | 第6章 アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとプログラムについて理解し、簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できるとともに問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に取り組む。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解し、目的やコンピュータの種類を考慮しつつ適切なプログラミング言語を選択する。 ・変数や配列を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成する。また、問題解決のアルゴリズムに従い、基本制御構造を使用してプログラムを作成する。 ・関数の概念を理解して関数を使用して簡単なプログラムを設計、作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。また、問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを作成するとともにそれらを自己・相互評価する。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート 授業での活動 | | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | | |
| | 評価 規 準 | アルゴリズムやプログラムの内容を理解し、フローチャートを作成できる。 | プログラミングの手順や表記を踏まえて、関数を用いたプログラムを製作できる。 | ・問題解決のために作成したプログラムを相互評価し、改善しようとしている。 | | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | |
|--------------------|---|--|--|--|---------------|
| 学年 | 3 年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 理系 |
| 教科 | 情報 | 科目 | 情報演習 | 単位 | 1 選択 選択 |
| 使用教科書 | 「最新情報 I」(実教出版) | | 補助教材等 | 最新情報 I 学習ノート (実教出版) 実戦攻略情報 I (実教出版) | |
| 科目の目標 | 科学的な知識や思考を用い、情報技術を活用して問題の発見・解決のための活動を通して、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。 ・効果的なコミュニケーションやデータの活用 of の技能を習得させ、情報社会と人との関わりについて理解させる。 ・社会事象を情報の結び付きとして捉え、問題の解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報と情報技術を適切に活用し、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ◎ | ○ | ○ | |
| | 評価規準 | ・社会問題の解決のための知識として情報や情報技術を理解し、身に付けている。 ・事象と情報の関連に着目し、問題解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | ・事象を情報とその結び付きの観点から科学的に捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 | ・情報社会の課題を主体的に解決しようとしている。 ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 | |
| 期間 | 学習指導計画 (学習内容とそのねらい) | | | 観点別評価 | |
| 第 1 学期 中間 期末 考査 まで | 第 1 章 情報社会と私たち ・情報に関する知識の意味と相互の関係について説明する。 ・情報化社会の特質について説明し、情報を活用した事例を挙げる。 ・情報モラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解し、SNSの活用など情報技術を用いたコミュニケーションの注意点を挙げるとともに、その活用や対策方法について理解し、改善しようとする。 ・知的財産権やそれが産業や文化に与えている影響と、その法律を挙げる。 ・著作物の適切な利用と公開の方法を理解し、著作物の適切な利用を説明する。 ・個人情報について理解しその保護や管理の方法について説明する。また、知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画する。 第 2 章 メディアと情報デザイン ・メディアの種類や機能について説明し、それを分類する。 ・メディアの特性について理解し、情報発信や情報の真意を読み解く。 ・メディアを活用してコミュニケーションの目的に合わせた方法を選択する。 ・インターネットの利用とその特性について説明し、適切なコミュニケーションを図るとともに、効果的な表現や情報伝達について改善する。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 定期考査等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | | | | 課題やレポート | |
| | | | | 授業での活動 | |
| | | | | | |
| 第 1 学期 期末 考査 まで | 第 2 章 メディアと情報デザイン ・情報デザインについて理解し、意味と目的について説明する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解し実践する。 ・報告書やレポートの作成手順を理解し、文書作成や、構成、について工夫する。 ・プレゼンテーションの作成、評価、改善の手順とスライド作成を実行する。 ・Webページ作成について理解し、作成する。 第 3 章 システムとデジタル化 ・コンピュータの構成と動作について理解し、適切に接続、作動させる。 ・ソフトウェアやインターフェースについて理解する。 ・アナログとデジタルについて理解し、その特徴を説明し、情報のデジタル化について、より深く理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解し、情報量を適切な単位で表現・変換する。 ・2進数などの相互変換や原理を理解し、情報を適切にデジタルで表現する。 ・音声情報のデジタル化について理解し、データ量を計算する。 ・画像情報のデジタル化について理解し、目的に応じてデジタル表現する。 ・データの圧縮について理解し、数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を適切に扱う。 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 定期考査等 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| | | | | 課題やレポート | |
| | | | | 授業での活動 | |
| | | | | | |
| 第 1 学期 | 観点別評価 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価規準 | ◎ | ○ | ○ | |
| | | ・情報社会の現状と関連法規について事例を踏まえて理解している。 ・メディアの機能や特性を理解し、適切なコミュニケーション手法を選択できる。 ・コンピュータやソフトウェアの仕組みを理解している。 ・アナログとデジタルの概念を理解し、○進数と関連付けて取り扱うことができる。 | ・メディアの特性を考慮しつつ情報収集・活用し、その結果もとしたコミュニケーションや表現ができる。 ・デジタル情報の取り扱いを踏まえ、アナログのデジタル変換や情報活用ができる。 | ・ネットトラブルや知的財産権の取り扱いなど情報社会の問題を主体的に解決しようとしている。 ・メディアから得た情報を適切に扱い、情報伝達やコミュニケーションに活用しようとしている。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | | | | |
|----------------|--|--|---|---|-------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 | | | |
| 第2学期中間 考查まで | 第4章 ネットワークとセキュリティ ・通信方式の種類について説明でき、目的に沿った情報機器の接続を考える。 ・インターネットの階層構造などを理解し、IPアドレス等の仕組みを説明する。 ・WWWや電子メールなどインターネットサービスの内容と仕組みを理解する。 ・通信データの転送速度とファイル圧縮について理解し転送する。 ・情報セキュリティの考え方やマルウェアの種類、被害の実態について理解する。 ・アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択する。 ・暗号化の方式と仕組みを理解し、情報セキュリティ対策をする。 第5章 問題解決とその方法 ・ブレーンストーミング等を用い、問題の発見・解決のための活動に参画する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・解決案を検討するため必要な情報を収集・整理する。 ・合意形成を目指し、問題解決のための資料作成や程表を作成する。 ・問題解決にあわせた評価を計画・実施、分析して結果をまとめる。 | | | 知識 技能 | 定期考査等 | 課題やレポート 授業での活動 | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | | 定期考査等 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | |
| 第2学期期末 考查まで | ・データの種類と尺度水準について理解し、データを収集、整理する。 ・表計算ソフトを用いたデータの処理ができ、データを選択して収集する。 ・グラフの種類や機能を理解し、目的に応じデータを可視化して表現する。 ・相関係数を用いた分析など、問題解決のためのデータ分析の手法を選択し、分析結果を効果的に表現する。 ・データベースの意味と必要性を理解し、分析結果について改善する。 ・モデル化、シミュレーションについて理解し、それらが問題解決でどのように利用されているか説明する。 ・モデル化を理解し、表現形式や対象の特性によつて分類する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、問題整理や問題の構造モデルを作成する。 ・動的に変化する現象を図的モデルで表すため表計算ソフトを用いて表現する。 ・シミュレーションの意義について理解する。 ・モンテカルロ法を理解し、それを用いたシミュレーションを行う。 ・待ち行列を事例にモデル化とシミュレーションによる問題解決を行い、確定的モデルのシミュレーションの過程を表やグラフで表現する。 | | | 知識 ・ 技能 | | 定期考査等 | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 | | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 |
| | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ◎ | 思考・判断・表現 ○ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | | |
| | 評価 規 準 | ・情報通信ネットワークの構成や仕組みと情報セキュリティの方法について理解している。 ・問題解決の目的やデータの取り扱いを理解し、分析手法や表計算ソフトの利用を提示できる。 ・モデル化やシミュレーションの内容を理解し、表計算ソフトの関数を選択できる。 | ・情報の安全確保のため、適切な行動がとれる。 ・問題解決のための活動に積極的に参加し、解決案やグループの合意形成を立案できる。 ・表計算ソフトを用いてモデル化やシミュレーションを作成できる。 | ・インターネットの仕組みやサービスの問題について検討しようとしている。 ・問題解決の結果を振り返り、改善を図ろうとしている。 ・作成したモデルやシミュレーションを個人あるいは相互に評価している。 | | | | |
| 学年末 考查まで | 第6章 アルゴリズムとプログラミング ・アルゴリズムとプログラムについて理解し、簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できるとともに問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に取り組む。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解し、目的やコンピュータの種類を考慮しつつ適切なプログラミング言語を選択する。 ・変数や配列を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成する。また、問題解決のアルゴリズムに従い、基本制御構造を使用してプログラムを作成する。 ・関数の概念を理解して関数を使用して簡単なプログラムを設計、作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。また、問題解決のためのアルゴリズムを考え、プログラムを作成するとともにそれらを自己・相互評価する。 | | | 知識 技能 | 課題やレポート 授業での活動 | | | |
| | | | | | 思考 判断 表現 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | | |
| | | | | | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 課題やレポート 授業での活動 振り返りシート等 | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技能 ○ | 思考・判断・表現 ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 ○ | | | | |
| | 評価 規 準 | アルゴリズムやプログラムの内容を理解し、フローチャートを作成できる。 | プログラミングの手順や表記を踏まえて、関数を用いたプログラムを製作できる。 | ・問題解決のために作成したプログラムを相互評価し、改善しようとしている。 | | | | |

※「◎」特に重視する観点

令和 6 年度 年間学習指導計画及び評価規準

| | | | | | | | |
|------------------------|--|---|---------------------------|--|-----------------------|--|----------|
| 学年 | 3年 | 学科 | 普通科 | 類型 | 総合文系・総合理系 | | |
| 教科 | 商業 | 科目 | ソフトウェア活用 | | 単位 | 4 | 必修 選択 |
| 使用教科書 | 「ソフトウェア活用」 (東京法令出版) | | 補助教材等 | 全国商業高等学校協会主催 情報処理検定模擬試験問題集 3級 (実教出版) | | | |
| 科目の目標 | 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 | | | | | | |
| 観点別評価 | 観点 | 知識・技術 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 重点 | ○ | | ◎ | | ○ | |
| | 評価規準 | 実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。 | | ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。 | | 企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する責任をもって取り組む態度を身に付けている。 | |
| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | | 観点別評価 | | |
| 第1学期 中間 期末 まで | 第1章 表計算ソフトウェアの活用 第1節 情報の集計 ・データを使用目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法について学習する。 第2節 情報の分析 ・データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法について学習する。 第3節 シミュレーション ・モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行（シミュレーション）して予測をするための方法について学習する。 | 知識 技術 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | | 授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等 | |
| 第1学期 期末 まで | 第4節 オペレーションズリサーチ ・集計、分析したデータを活用して経営に関する課題を発見し、解決策を見つける手法について学習する。 第5節 手続きの自動化 ・効率のよい処理を行うため、繰り返して実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について学習する。 第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節 データベースの重要性 ・ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について学習する。 ・データベースのデータを守るためのしくみについて学習する。 第2節 リレーショナルデータベースの概要と設計 ・データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて学習する。 | 知識 技術 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 | | 主体的に 学習に取り 組む態度 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | |
| | | | 思考 判断 表現 | 定期考査等 実技テスト等 授業での活動 振り返りシート等 | | 授業での活動 課題やレポート 振り返りシート等 | |
| 第1学期 | 観点別 評価 | 知識・技術 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 評価規準 | ○ ・情報の集計や分析に関する知識を理解している。 ・データベースの概要について理解している。 | | ◎ ・情報の集計や分析に関する知識・技術を活用し、表計算ソフトウェアによって課題を解決しようとしている。 ・ビジネスにおけるデータベースの重要性について考えようとしている。 | | ○ ・表計算ソフトウェアによる情報の集計によって課題を解決することに、主体的かつ協動的に取り組んでいる。 ・データベースの重要性に関する学習に、主体的かつ協動的に取り組んでいる。 | |

| 期間 | 学習指導計画（学習内容とそのねらい） | | | 観点別評価 | |
|--------------------|---|---|---|--|--------|
| | | | | 観 点 | 評価の手段 |
| 第2学期 中間 考查まで | Excelによる情報処理検定3級演習 全商情報処理検定3級受験 第3節 データベースの作成と操作 ・商品管理についてのデータベースを作成するために必要なデータベースソフトウェアの操作方法を学習する。また、学習内容を活用して報告書を作成する。 第4節 手続きの自動化 ・一連の処理をマクロ機能によって自動化する方法と、メニューを作成する方法について学習する。 第3章 情報システムの開発 第1節 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発 ・表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用してシステム開発をするための方法について学習する。 | | | 知識 技術 | 定期考査等 |
| | | | | | 実技テスト等 |
| | | | | 授業での活動 | |
| 第2学期 期末 考查まで | 第2節 データベースソフトウェアによる情報システムの開発 ・手続きの自動化とユーザフォームを活用した簡単なシステムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。 第4章 業務処理用ソフトウェアの活用 11月～ 第1節 グループウェアの活用 ・企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて学習する。 第2節「給与計算ソフトウェアの活用 ・企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて学習する。 第3節「仕入・販売管理ソフトウェアの活用 ・仕入・販売・在庫管理などに利用される仕入・販売管理ソフトウェアについて学習する。 | | | 知識 ・ 技術 | 定期考査等 |
| | | | | | 実技テスト等 |
| | | | | 授業での活動 | |
| 第2学期 | 観点別 評価 | 知識・技術 | ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | | 知識・技術 | ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングとアルゴリズムの概要について理解している。 ・データベースソフトウェアの操作に関する知識・技術を、実用的な形で身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムやマクロ言語によるプログラミング、表計算ソフトウェアの機能などに関する知識・技術を活用して、課題を解決するための情報システムを開発しようとしている。 ・グループウェアや給与計算ソフトウェア、仕入販売管理ソフトウェアの特徴について理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムやマクロ言語によるプログラミング、表計算ソフトウェアの機能に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・グループウェアや給与計算ソフトウェア、仕入販売管理ソフトウェアについて学習し、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | |
| 学年 末 考查まで | 第5章 情報システムの基礎 第1節 情報通信ネットワークの導入と運用 ・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。 第2節 情報資産の保護 ・情報資産を保護する重要性や方法について学習する。 | | | 知識 技術 | 定期考査等 |
| | | | | | 実技テスト等 |
| | | | | 授業での活動 | |
| 第3学期 | 観点別 評価 | 知識・技術 | ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | | 知識・技術 | ◎ | 主体的に学習に取り組む態度 | ○ |
| | 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・通信手段がどのように変化してきたのか、理解している。 ・ネットワークの導入と運用についてや、安定したシステムを構築するための方法について理解している。 ・情報資産を保護するための情報セキュリティについて理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するためにネットワークを活用するための方法について考えようとしている。 ・どのようにすれば情報資産を保護することができるのか、考えようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの導入・構築・活用に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・情報資産の保護に関する学習に、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | |

※「◎」特に重視する観点